

農 学 部

Faculty of Agriculture

農学部 of 教育理念

農学部では、健全な倫理観、多様な価値観を受容できる寛容性、社会貢献意欲、そして農学や生命科学に関する幅広い知識など、基盤的な能力（農学ジェネラリティ）を備えたうえで、農業、食物生産、自然環境の保護、獣医療などの農学基本分野における高度な専門性（実践型スペシャリティ）を持ち、自然との共生社会の実現に貢献できる人材の養成を目的とする。

農学部 of 教育目標

本学部の目的を達成するために、農学科 動植物資源生命科学コース、農学科 森林環境持続性科学コース、農学科 海洋生命科学コース、農学科 応用生命化学コース、獣医学科を設け、充実した教育に取り組む。

（実施する教育）

1. 健全な倫理観、多様な価値観を受容できる寛容性、社会貢献意欲、そして農学や生命科学に関する幅広い知識など、基盤的な能力（農学ジェネラリティ）を備えた人材を育成する。
2. 農業、食物生産、自然環境の保護、獣医療などの農学基本分野における高度な専門性（実践型スペシャリティ）を持ち、自然との共生社会の実現に貢献できる人材を育成する。

（育成する資質・能力）

1. 農林水産業、人間と動物との関わり、生物資源とそれらを取り巻く自然環境の保護、生命科学などに関して、専門性を高めるための基盤となる知識や能力を幅広く身に付けている。（農学ジェネラリティ）
2. 農林水産業・獣医療・農獣医学研究・食品関連産業・公務員等のいずれかに関する高度な専門的知識や技術・能力を身に付けている（実践型スペシャリティ）
3. 数理・データサイエンス・AIに関する応用基礎レベルの素養を身に付けている。
4. 上記3項目の能力及び素養を、それぞれの専門分野において地域や国際、または学問上の課題解決に活用できる実践力と基礎的研究能力を身に付けている。

1. 農学部沿革及び組織の概要

・沿革

本学部は、大正13年9月に設立された宮崎高等農林学校（昭和19年宮崎農林専門学校と改称）を母体とし、昭和24年5月国立学校設置法の公布により宮崎大学に包括され、宮崎大学農学部として発足した。令和6年9月には創立100周年を迎えた。

- 昭和24年6月1日 宮崎大学学則を制定、本学部には農学科第1部、同第2部・林学科・畜産学科・獣医学科・農業化学科が置かれた。
- 昭和26年4月1日 水産学科設置
- 昭和28年4月1日 総合農学科設置（農学科第2部廃止）
- 昭和31年4月1日 農学専攻科（農学専攻・林学専攻・畜産学専攻・獣医学専攻・農業化学専攻・水産学専攻）設置
- 昭和34年4月1日 農学部別科（畜産専修）設置
- 昭和38年4月1日 総合農学科を改組し農業工学科を設置
- 昭和42年6月1日 大学院農学研究科（修士課程）設置（農学専攻・林学専攻・畜産学専攻・獣医学専攻・農業化学専攻・農業工学専攻）
- 昭和42年6月1日 大学院農学研究科設置に伴い農学専攻科は水産学専攻を除き廃止
- 昭和44年4月1日 水産学科を改組し水産増殖学科を設置
- 昭和46年4月1日 草地学科設置
- 昭和48年4月1日 農学専攻科（水産学専攻）廃止
- 昭和48年4月1日 大学院農学研究科水産増殖学専攻設置
- 昭和50年4月1日 大学院農学研究科草地学専攻設置
- 昭和63年4月1日 鹿児島大学大学院連合農学研究科（後期3年博士課程）が設置され、農学部が構成大学となる。
- 平成元年4月1日 獣医学科を除く農学科、林学科、畜産学科、農業化学科、水産増殖学科、農業工学科、草地学科の7学科を改組し、農林生産学科、生物資源利用学科、動物生産学科の3学科に再編
- 平成2年4月1日 山口大学大学院連合獣医学研究科（4年博士課程）が設置され、農学部が構成大学となる。
- 平成5年4月1日 農学専攻、林学専攻、畜産学専攻、農業化学専攻、水産学専攻、農業工学専攻、草地学専攻の7専攻を改組し、農林生産学専攻、生物資源利用学専攻、動物生産学専攻の3専攻に再編
- 平成12年4月1日 獣医学科を除く農林生産学科、生物資源利用学科、動物生産学科の3学科を改組し、食料生産科学科、生物環境科学科、地域農業システム学科、応用生物科学科の4学科に再編
- 平成13年4月1日 附属農場、附属演習林、附属水産実験所の3附属施設を改組し、附属自然共生フィールド科学教育研究センターを設置
- 平成15年10月1日 宮崎大学と宮崎医科大学が統合し、宮崎大学設置
- 平成16年4月1日 国立大学法人宮崎大学設置
- 平成17年4月1日 宮崎大学大学院農学研究科修士課程の農林生産学専攻、生物資源利用学専

攻、動物生産学専攻の3専攻を改組し、生物生産科学専攻、地域資源管理科学専攻、森林草地環境科学専攻、水産科学専攻、応用生物科学専攻の5専攻に再編

- 平成19年4月1日 附属家畜病院を附属動物病院に名称変更
農学工学総合研究科（博士後期課程）設置
鹿児島大学大学院連合農学研究科を離脱
- 平成22年4月1日 食料生産科学科、生物環境科学科、地域農業システム学科、応用生物科学科、獣医学科の5学科を改組し、植物生産環境科学科、森林緑地環境科学科、応用生物科学科、海洋生物環境学科、畜産草地科学科、獣医学科の6学科に再編
大学院医学獣医学総合研究科を設置
山口大学大学院連合獣医学研究科を離脱
- 平成22年10月1日 附属自然共生フィールド科学教育研究センターの組織を整備し、附属フィールド科学教育研究センターと改称した。
- 平成26年4月1日 宮崎大学大学院農学研究科修士課程の生物生産科学専攻、地域資源管理科学専攻、森林草地環境科学専攻、水産科学専攻、応用生物科学専攻の5専攻を改組し、植物生産環境科学コース、森林緑地環境科学コース、応用生物科学コース、海洋生物環境科学コース、畜産草地科学コース、農学国際コースの6コースに再編
- 平成28年4月1日 グローバル人材育成学部教育プログラムを設置
- 令和7年4月1日 植物生産環境科学科、森林緑地環境科学科、応用生物科学科、海洋生物環境学科、畜産草地科学科、獣医学科の6学科を改組し、農学科、獣医学科の2学科に再編
附属フィールド科学教育センターを改組し、附属次世代農学教育研究センターを設置
グローバル人材育成学部教育プログラムを廃止

附属施設などの沿革と概要

(1) 宮崎大学農学部附属次世代農学教育研究センター

前身の農学部フィールド科学教育研究センターを改組し、令和7年4月に宮崎大学農学部附属次世代農学教育研究センターとして発足した。その目的は農学部学科改組に伴う人材育成像の変更に対応するため、また全学的に開かれた融合教育・研究を行う場として機能するためである。前身のフィールド科学教育研究センターを受け継いだ「先端フィールド実践部門」と、新たな融合教育・研究を推進する「地域共創・異分野融合推進部門」の2つの部門からなる。教育研究の実践の場として次の4つのフィールドを有する。

木花フィールド（農場）

学内にあり、水田、露地野菜圃場、温室、ビニルハウス、果樹園などを備える。

住吉フィールド（牧場）

家畜生産のみならず飼料生産から畜産物利用までの総合的な畜産関連設備・施設を備える。宮崎市東北部、JR九州日豊本線日向住吉駅の東方約1kmに位置する。

田野フィールド（演習林）

田野フィールド（演習林）は田野地区、大納地区、崎田地区の3地区からなり計約620 haの森林を所有する。田野地区は宮崎平野の西端に位置し、面積は約500 haの里山である。大納地区は日南海岸に面し面積は約60 ha、崎田地区は志布志湾に面し面積は約60 haあり全国的に貴重な天然性海岸風衝群落が残存する。

延岡フィールド（水産実験所）

日向灘に面した延岡市に位置し、実習船の他、実験室、海水飼育設備、宿泊施設を所有する。九州東岸の太平洋側にある大学水産実験所としては唯一のものである。

(2) 農学部附属動物病院

本施設の省令化は昭和28年8月1日であるが、歴史は古く、施設の建設は、宮崎高等農林専門学校時代の昭和15年である。その後、昭和60年1月の宮崎大学の統合移転で現在のキャンパスに新築され、平成19年4月に「家畜病院」から「動物病院」に名称変更された。

動物病院棟は、鉄筋2階建て（1階988.72㎡、2階795.60㎡）構造である。小動物診療部門（診察室、診療室、臨床検査室、薬剤検査室、小動物手術室、小動物X線室、入院室、処置室、理学療法室、回復室）、大動物診療部門（大動物診療兼手術室、大動物X線室）、学生実習部門（学生実験室）があり、併せて別棟として、実習・実験用大動物舎（262㎡）および実習・実験用中小動物舎（53㎡）がある。さらに本院は、地域の中核動物病院であり、X線CT装置、大動物用X線装置、超音波断層撮影装置、自動血球カウンター、小型貨物自動車等を備え、地域社会における産業動物（牛、馬、豚、鶏）および伴侶動物（犬、猫等）などの診療を通じ、獣医学科学生の獣医臨床教育の場として、また獣医学科教員の教育研究の場として活躍している。

(3) 農学部附属農業博物館

現在の附属農業博物館は平成10年4月に省令施設となり、平成11年5月に館内のリニューアルを行い、現在にいたっている。

博物館は、本館と別館の2つの建物から構成されており、本館では、農学部の調査研究の成果をはじめ、宮崎の農林水産および畜産にかかわる標本・資料の展示を行っている。現在、本館には、「宮崎の農業コーナー」をはじめ、6つの展示コーナーがあり、本学教職員、学生をはじめ、一般にも開放している（入館料は無料）。

本館の歴史は長く、農学部の前身である宮崎高等農林学校の創立10周年記念事業として同窓会から寄贈を受け、昭和10年7月に創立された農業博物館に始まる。現在の建物（鉄筋2階建：420㎡）は、大学の統合移転に伴い、昭和61年に移転新築されたものである。

分館は、平成元年10月宮崎大学農学部同窓会によって建設（鉄筋2階建：340㎡）、寄贈されたものである。分館には研修室（2室）、会議室、実験実習室があり、学部教育をはじめ、一般を対象とした講演会・セミナー等に広く活用されている。

なお、開館時間は、月曜～金曜の午前9時から午後4時まで、休館日は土曜日、日曜日、祝日である。

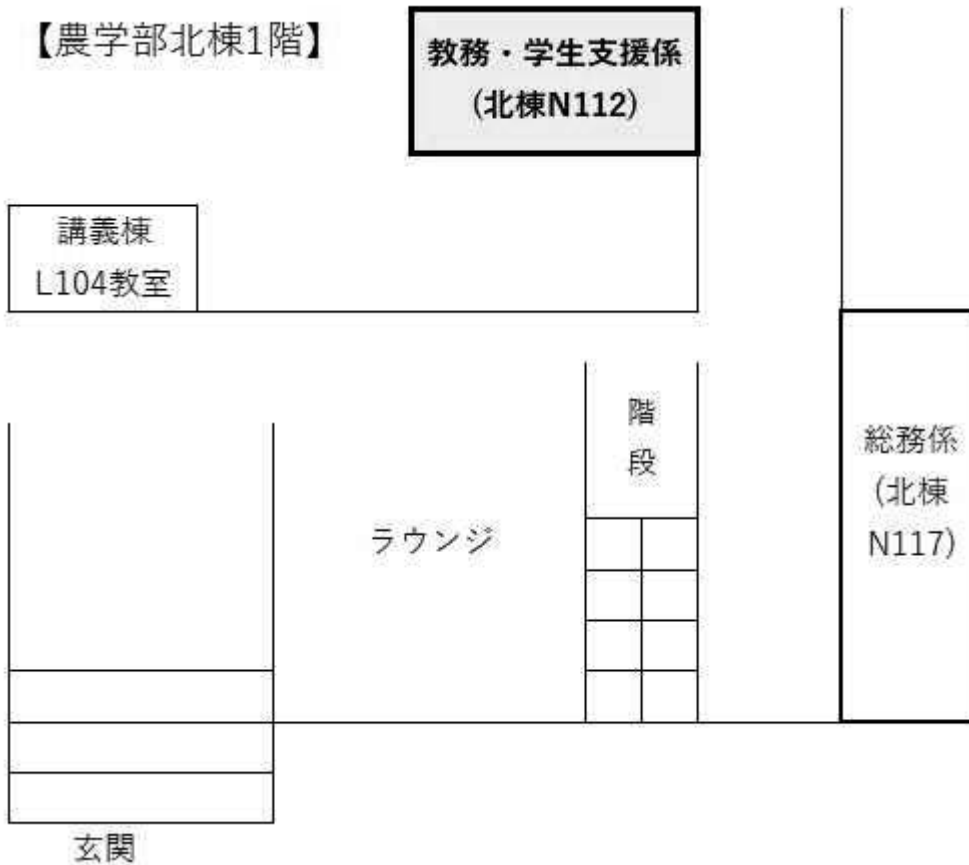
2. 各種取扱事項に係る事務の窓口について

(1) 宮崎大学全体の事務の窓口

		窓 口	取扱事項
創 立 3 3 0 記 念 交 流 会 館	学 び ・ 学 生 支 援 機 構	教育企画課教育企画係	学生証に関すること 受講科目登録手続き(web 上で) 証明書に関すること (※証明書自動発行機で入手出来る証明書は下記)
		学生なんでも相談室	学生生活上のあらゆる相談
		学生支援係	学生支援に関すること 課外活動・諸行事に関すること 物品貸出・体育施設に関すること 学生寄宿舍に関すること 自動車駐車許可証の発行 学内での掲示に関すること
		経済支援係	奨学金・入学料免除・授業料免除・授業料分納に関すること 経済相談・アルバイトに関すること 通学証明書の発行 傷害保険に関すること
		共創人材育成係	インターンシップに関すること ビジネスプランコンテストに関すること カジュアルトークに関すること 地域教育プログラム(みやざき産業人材認定証・学生マイスター)に関すること 高等教育コンソーシアム(公募卒論・インゼミなど)に関すること まちなかキャンパスに関すること
	キャリア支援係	求人紹介・就職相談・就職情報の提供	
			証明書自動発行機
学び・学生支援機構 教育企画課 教養教育係(教育・地域資源創成学部棟 1階)			教養教育科目の履修・追試験・再試験に関すること
事務局	財務部財務課出納係 (2階)		授業料の納付(ただし、銀行引き落としが原則)
大学会館	国際連携機構 国際連携課 (2階)		外国人留学生に関すること 海外留学に関する情報提供
ハラスメント等相談員(学内にも掲示)			ハラスメントに関すること
安全衛生保健センター (事務局に隣接)			定期健康診断・臨時健康診断 健康相談・救急措置 精神衛生に関する相談(カウンセリングなど)

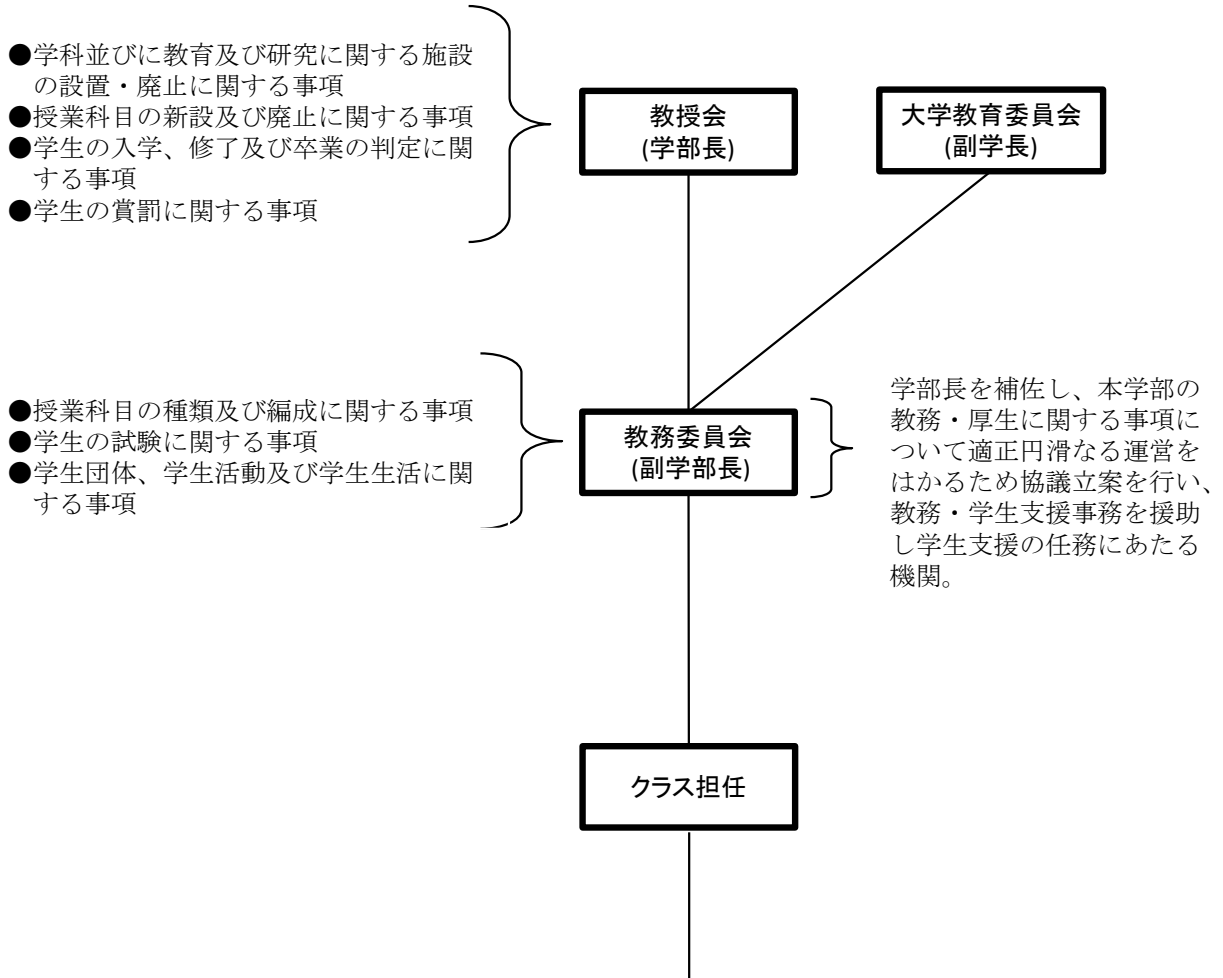
(2) 農学部事務の窓口

窓 口	取扱事項
<p>農学部教務・学生支援係 (農学部北棟 1 階 N112)</p>	<p>専門科目の履修・試験に関すること 特別欠席に関すること 教職免許などの資格に必要な科目に関すること 教育実習に関すること 時間割・教室配当・教室管理に関すること 就職活動に関すること 学内での掲示に関すること インターンシップに関すること 休学・復学・退学・除籍・再入学・転学・転学部・転課程等に関すること 海外留学に関すること 大学院生・研究生・科目等履修生に関すること 成績についての申し立てに関すること</p>



3. 学生支援組織について

農学部の学生支援組織について



学生が学生生活を営む上において直接あらゆる相談に応じ、教務委員又は教務・学生支援係と密接な連絡をとり、学生支援の任務にあたる。

4. 農学部における諸規程

下記のホームページに諸規程（PDF）を掲載しています。必要に応じて参照してください。

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/student/post-1.html>



掲載規程（※(1)～(3)は本便覧内にも掲載）

- (1) 宮崎大学農学部規程
- (2) 宮崎大学農学部専門科目の受講及び成績評価に関する細則
- (3) 宮崎大学農学部卒業研究科目登録に係る要件及び参加型臨床実習受講に係る要件等に関する要項
- (4) 宮崎大学農学部学生の卒業時期に関する取扱い
- (5) 宮崎大学農学部における専門科目の科目登録の削除の取扱いに関する申合せ
- (6) 農学部・農学研究科専門科目の成績評価に対する異議申立てに関する申合せ
- (7) 宮崎大学農学部既修得単位認定に関する要項
- (8) 農学科生のコース配属に関する申合せ
- (9) 農学科入学時に仮配属されたコースから別のコースへの配属（コース移動）を希望する学生の取扱いに関する申合せ
- (10) 農学科生の研究室配属方法に関する申し合わせ
- (11) 宮崎大学農学部における転学部に関する細則
- (12) 宮崎大学農学部転学科規程

(1) 宮崎大学農学部規程

〔平成16年4月1日〕
制 定

改正 平成22年3月8日 平成25年5月21日
令和2年12月15日 令和4年2月15日
令和6年1月16日 令和7年2月18日
令和8年2月17日

(趣旨)

第1条 宮崎大学農学部（以下「本学部」という。）の教育に関しては、宮崎大学学務規則及びその他の諸規程に定めるもののほか本規程によるものとする。

(目的)

第2条 本学部は、食料、環境、資源及び生命に関する基礎知識の理解をもとに、広い視野で物事を考える総合的判断力や問題解決能力を身につけ、社会の要請に応えるための農学に関する高度な専門性と技術を修得し、それらに関する問題解決を通じて地域と国際社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

(教員組織)

第3条 宮崎大学農学部及び農学研究科における教育研究上の目的を達成するための教員組織として、次の部門及び領域を置く。

農学部門

動植物資源生命科学領域

森林環境持続性科学領域

海洋生命科学領域

応用生命化学領域

獣医学部門

獣医学領域

- 2 農学部の教員は、前項の部門・領域に所属するものとする。
- 3 部門に部門長を置き、当該部門の教授をもって充てる。
- 4 領域に領域長を置き、当該領域の教授をもって充てる。

(教育組織)

第4条 本学部には、次の学科及びコースを置く。

農学科

動植物資源生命科学コース

森林環境持続性科学コース

海洋生命科学コース

応用生命化学コース

獣医学科

- 2 学科に学科長を置き、関連する部門の教授をもって充てる。

3 コースにコース長を置き、関連する領域の教授をもって充てる。

(学部教育等の担当)

第5条 農学部の教員は、教育組織及び附属施設又はいずれかに派遣され、農学部及び農学研究科の教育を担当し、かつ、農学部における職務を担当するものとする。

2 他部局等に所属する教員は、当該部局等から教育組織及び附属施設又はいずれかに派遣され、農学部及び農学研究科の教育を担当し、かつ、農学部における職務を担当するものことができるものとする。

(教養教育科目)

第6条 教養教育科目で開設する授業科目の種類、単位数、履修方法及び教養教育科目の受講、成績評価等に関しては、別に定めるところによるものとする。

(専門科目)

第7条 本学部の専門科目の授業科目の種類、単位数、履修方法及び専門科目の受講、成績評価に関しては、別に定めるところによるものとする。

(単位の計算方法)

第8条 宮崎大学学務規則第23条第1項に基づく本学部の単位の計算方法については、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、適切な授業形態を1種類ないし複数組み合わせ、単位数に応じた適切な内容になるように、授業科目毎に設定するものとする。

(卒業所要単位)

第9条 卒業に要する単位数は、別表1に定めるところによる。

(卒業の認定)

第10条 卒業の認定は、宮崎大学学務規則第5条に定める修業年限（同規則第13条第1項の規定により入学した者にあつては、同条第2項の規定により定められた在学すべき年数）以上在学し、所定の単位数を修得し、かつ、在籍する学科における卒業の審査に合格した者について、農学部教授会の議を経て、学長が行う。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、教授会が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 平成15年度以前入学生については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 平成21年度以前に入学した者の卒業所要単位は、改正後の規定にかかわらず、なお従前例による。

附 則

- 1 この規程は、平成25年5月21日から施行し、平成25年4月1日から適用する。

2 平成 24 年度以前に入学した者の卒業所要単位は、改正後の規定にかかわらず、なお従前例による。

附 則

- 1 この規程は、令和 2 年 12 月 15 日から施行する。
- 2 改正後の第 4 条は、平成 26 年度以降に入学した者に適用し、平成 25 年度以前に入学した者については、なお従前例による。
- 3 改正後の第 7 条は、平成 25 年度以降に入学した者に適用し、平成 24 年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、令和 4 年 2 月 15 日から施行する。
- 2 改正後の第 7 条ただし書の規定については、令和 4 年度以降に入学する者に適用し、令和 3 年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 令和 6 年度以前に本学部に入学者及び令和 8 年度以前に獣医学科以外の学科に編入学した者又は編入学する者（但し、獣医学科は令和 7 年度以前）の科目の履修方法及び卒業所要単位等は、本規程の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、令和 7 年度以降に獣医学科に入学者に適用し、令和 6 年度以前に入学者については、なお従前の例による。

別表 1

	農学科	獣医学科
教養科目	36 単位以上	36 単位以上
専門科目	88 単位以上	147 単位以上 (ただし、SPARC 未来共創教育プログラムの学生は 151 単位以上)

(2) 宮崎大学農学部専門科目の受講及び成績評価に関する細則

〔 令和 2 年 12 月 15 日 〕
〔 制 定 〕

改正 令和 3 年 5 月 18 日 令和 6 年 1 月 30 日
令和 6 年 10 月 15 日 令和 7 年 2 月 18 日

(趣旨)

第 1 条 この細則は、宮崎大学農学部規程第 7 条に基づき、宮崎大学農学部における学部共通科目・専門基盤科目・専門科目（以下「専門科目」という。）の受講及び成績評価に関し、必要な事項を定める。

(単位修得及び履修の認定)

第 2 条 授業科目の単位修得及び履修の認定は、試験、レポート等に基づき授業担当教員が行うものとする。

(受講科目登録)

第 3 条 農学部所定の専門科目を受講するときには、受講科目を所定の手続きにより別に定める期日までに登録しなければならない。

2 科目登録は、原則として半期 25 単位を上限とする。ただし、卒業研究、卒業研修、集中講義科目、教職及び学芸員等の資格・免許取得に関連する科目は含まない。

3 前項の規定にかかわらず、直近の学期の GPA が 3.0 を超える成績優秀者については、半期 30 単位を上限とすることができる。

4 教育上の配慮が必要な者については、教務委員会の議を経て、第 2 項の上限の適用を除外することができる。

(他学部の受講)

第 4 条 他学部の専門科目を受講するときは、所定の受講願を講義開始時まで教務・学生支援係に提出し、当該学部長の許可を得なければならない。

(成績評価を受ける資格)

第 5 条 各授業科目について所定時間数の 75% 以上出席していなければ成績評価を受ける資格を得ることができない。

2 各授業科目の受講に当たり、遅刻又は早退のあるときは、3 回の遅刻又は早退をもって 1 回の欠席としてみなす。

(特別欠席の取扱)

第 6 条 次の理由により欠席した者は、所定の特別欠席願を教務・学生支援係に提出し、欠席する授業の担当教員に特別欠席を願い出ることができる。授業担当教員は、原則として、欠席の補填措置を行い、特別欠席を欠席数に加算しないものとする。

(1) 忌引

父母及び配偶者にあつては 7 日、子にあつては 5 日、祖父母及び兄弟姉妹にあつては 3 日とする。

(2) 天災

学部長が必要と認める日・時間

(3) 学校保健安全法に定める感染症に該当するとき。

医師の証明に基づく治療に必要な期間。ただし、4週間以上の長期にわたる場合を除く。

(4) 大学で主催する文化及び体育等の課外活動で、主催大学の副学長等から正式の派遣依頼があり副学長（教育・学生担当）が認めたとき、又は大学以外の団体等が主催するもので学長が認めたとき。ただし、期間及び回数について制限する場合がある。

(5) その他やむを得ない事情があると教務委員会が認めたとき。ただし、事前に特別欠席願の提出が可能なものについては、事前提出がなされなかった場合は特別欠席を認めない。

（成績評価の方法）

第7条 授業科目を履修した学生に対しては、クォーター制については各期の最終回に、2学期制については、学修評価期間に試験を実施する（定期試験）ことができるものとする。ただし、試験を実施する場合は、事前にシラバスに明記し学生に周知するものとする。なお可否は、試験終了後2週間以内にWeb上で発表する。

（追試験）

第8条 成績評価を受ける資格を有し、第6条に掲げる理由により学修評価期間における試験を受験できなかった者は、授業担当教員が認めた場合に、追試験を1回限り受けることができる。

2 追試験は、学修評価期間終了後3週間以内（卒業期にある学生の後学期学修評価期間に限っては1週間以内）に、授業担当教員が適宜実施するものとし、受験を希望する者は、追試験届を学修評価期間終了後10日以内（卒業期にある学生の後学期学修評価期間に限っては3日以内）に教務・学生支援係に提出しなければならない。

3 クォーター制で実施されている科目については、学修評価期間を、各期の最終回と読み替える。

（再試験）

第9条 学修評価期間における試験及び追試験で不合格の者は、授業担当教員に願い出て授業担当教員が認めた場合に、再試験を受けることができる。

2 再試験は、前学期は9月下旬までに、後学期は3月上旬までに公示のうえ実施する。

3 再試験の可否発表は、試験終了後1週間以内にWeb上で発表する。

4 再試験の評価は、60点を上限とし、59点以下を不合格とする。

5 クォーター制で実施されている科目については、学修評価期間を、各期の最終回と読み替える。

（単位の認定及び成績評価基準）

第10条 単位の認定は、授業担当教員の評点をもつて行う。

2 標準成績評価基準は、次の標語と評点により、秀、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。

秀：評点90点以上（到達目標を特に優秀な水準で達成している。）

優：評点80～89点（到達目標を優秀な水準で達成している。）

良：評点70～79点（到達目標を良好に達成している。）

可：評点60～69点（到達目標の必要最低限は達成している。）

不可：評点60点未満（到達目標の必要最低限を達成していない。）

（成績評価に対する申立て）

第11条 成績評価を受けた者で、成績評価に異議がある場合には、原則として学期末までに教務・学生支援係を通じて副学部長（教務担当）に申立てをすることができる。詳細については別に定める。

(不正行為)

第12条 成績評価に係る試験等で不正行為をした者は、宮崎大学学務規則並びに宮崎大学学生の懲戒に関する基準及び試験等における不正行為の取扱いに関する申合せにより懲戒され、当該科目及び当該学期の科目の成績については認定されない場合がある。

(獣医学科生の進級要件及び原級留置となった場合の取扱い)

第13条 獣医学科生の進級要件及び原級留置となった場合の取扱いは、別表第1のとおりとする。

(雑則)

第14条 この細則に定めるもののほか、専門科目の受講及び成績評価に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この細則は、令和2年12月15日から施行する。

附 則

この細則は、令和3年5月18日から施行する。

附 則

この細則は、令和6年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、令和7年4月1日から施行する。

別表第1 (第13条関係)

獣医学科生の進級要件

学年	進級判定基準
3年	教養教育科目及び獣医学科専門科目教育課程表に定められた3年次までに配当された必修科目（講義・実験・実習・演習）について全ての単位を修得すること。
4年	教養教育科目及び獣医学科専門科目教育課程表に定められた4年次までに配当された必修科目（講義・実験・実習・演習）について全ての単位を修得すること。

備 考 (第13条関係)

1. 各学年の進級要件を満たさなかった場合は、原級に留まり、進級に必要な科目を修得するものとする。

(3) 宮崎大学農学部卒業研究科目登録に係る要件及び参加型臨床実習受講に係る要件等に関する要項

〔令和7年4月1日〕
制 定

(趣旨)

第1条 この要項は、宮崎大学農学部における卒業研究科目登録及び参加型臨床実習の受講に係る要件等に関し、必要な事項を定める。

(卒業研究科目登録)

第2条 農学科においては、卒業に必要な総単位のうち86単位以上を修得することを要件とする。

獣医学科においては、宮崎大学農学部専門科目の受講及び成績評価に関する細則に定めた進級要件を満たし5年次に進級していることを要件とする。卒業研究の科目登録の時期は、農学科においては4年進級時、獣医学科においては6年進級時とする。

(獣医学科における参加型臨床実習の各科目の受講)

第3条 獣医学科において参加型臨床実習の各科目を受講するためには、獣医学教育支援機構が定める獣医学共用試験に合格していなければならない。なお、獣医学共用試験を受験するための要件は、宮崎大学農学部専門科目の受講及び成績評価に関する細則に定めた5年次への進級要件を満たしていることとする。

(雑則)

第4条 この要項に定めるもののほか、科目登録及び受講要件等に関し必要な事項は、教授会で別に定める。

附 則

- 1 この要項は、令和7年4月1日から施行する。
- 2 宮崎大学農学部専門科目の受講に係る要件等に関する要項（令和2年12月15日制定）は、廃止する。

5. ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

農学部では、健全な倫理観、多様な価値観を受容できる寛容性、社会貢献意欲、そして農学や生命科学に関する幅広い知識など、基盤的な能力（農学ジェネラリティ）を備えたうえで、農業、食物生産、自然環境の保護、獣医療などの農学基本分野における高度な専門性（実践型スペシャリティ）を持ち、自然との共生社会の実現に貢献できる人材の養成を教育目的とする。

そこで、農学部では、宮崎大学学務規則に規定する修業年限以上在学し、各学科所定の単位数を修得し、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士の学位を与える。（農学科は学士（農学）、獣医学科は学士（獣医学））

学 部

本学に所定の期間在籍し、基準となる単位を修得するとともに、本学部の目的・理念及び教育目標に基づき、学生の学修成果が到達目標に達したと認められる者に、学士（農学科は学士（農学）、獣医学科は学士（獣医学））の学位を授与する。

1. 全学に共通な学修成果である「学士基盤力」を身につけている。
2. 学部共通及び各学科における「学士専門力」を身につけている。
3. 卒業研究として、獲得した知識や技能を統合し課題を解決することができ、その成果を論文としてまとめることができる。

農学科 動植物資源生命科学コース

- A) 農学俯瞰力：農学獣医学に関する幅広い知識や技術に基づく思考や判断ができる。
- B) データ運用力：数理・データサイエンス・AIに関する応用基礎レベルのデータ運用ができる。
- C) 動植物生産活用力：動植物の生産や農業に関する専門知識と技能を有し、持続可能な食料供給に活用できる。
- D) 動植物生態・環境活用力：動植物の生態や環境に関する専門知識と技能を有し、環境の保全と調和に活用できる。
- E) 動植物生命・食品活用力：動植物資源の生命現象や食品分野への応用に関する専門知識と技能を有し、健康で豊かな暮らしの実現に活用できる。

農学科 森林環境持続性科学コース

- A) 農学俯瞰力：農学獣医学に関する幅広い知識や技術に基づく思考や判断ができる。
- B) データ運用力：数理・データサイエンス・AIに関する応用基礎レベルのデータ運用ができる。
- C) 環境持続性基礎・応用力：森林・緑地および関連する生物・非生物材料、国土保全、水資源利用に関する広い知識を修得し、持続可能な社会の実現に応用することができる。
- D) 環境持続性解決力：里地・里山で生じている国内および国際的な諸問題に対して、具体的な課題を見つけ出し、その解決方法を提案できる。
- E) 環境持続性実践力：生産と保全を調和させた持続可能な地域社会を実現するために、様々な関係者とコミュニケーションをとり協働して対策を実践することができる。

農学科 海洋生命科学コース

- A) 農学俯瞰力：農学獣医学に関する幅広い知識や技術に基づく思考や判断ができる。
- B) データ運用力：数理・データサイエンス・AIに関する応用基礎レベルのデータ運用ができる。

- C)理解力：海洋生命科学に関する基礎知識：海洋生命に関わる様々な現象を理解する上で必要な生物と化学の基礎知識を理解し専門分野に応用できる。
- D)応用力：海洋生命科学に関する専門知識：生態環境学、増養殖学、応用生理病理学、生物資源化学の各領域に関する専門知識を理解し、それを問題解決に応用できる。
- E)実行力：専門分野で修得した知識・技術を活用し、地域社会や国際社会で海洋に関わる諸問題を他と協力し解決できる。

農学科 応用生命化学コース

- A)農学俯瞰力：農学獣医学に関する幅広い知識や技術に基づく思考や判断ができる。
- B)データ運用力：数理・データサイエンス・AIに関する応用基礎レベルのデータ運用ができる。
- C)基礎理解力：生命化学に関する基礎知識：生命現象を理解する上で必要な化学と生物の知識を深化させることができる。
- D)応用力：応用生命化学に関する知識：応用生物化学、食品化学、生物工学の各領域に関する基礎および専門知識を理解し、それを問題解決に応用できる。
- E)実践力：あらゆる状況下で計画的に仕事を進め、まとめる力：応用生命化学に関する課題解決のための筋道をデザインし、自立して仕事を計画的に進め、期限内に終わることができる。

獣医学科

- A)農学俯瞰力：農学獣医学に関する幅広い知識や技術に基づく思考や判断ができる。
- B)データ運用力：数理・データサイエンス・AIに関する応用基礎レベルのデータ運用ができる。
- C)理解力・判断力：動物福祉について基本的な精神と概念を身に付けるとともにグローバルな基準と動物福祉に関する諸問題を理解し、説明できる。
- D)応用力・行動力：動物組織の構造や機能、病態・疾患、感染症、公衆衛生、診断・治療・予防など、獣医師に必要な専門知識を身につけ、健全な倫理観をもって行動できる。
- E)課題設定力・洞察力・論理的思考力・共感力・表現力：
 - 獣医師の社会的役割を理解し、それを実践するための基本的技能、洞察力、課題探求力、論理的思考力、協調性、計画性、コミュニケーション力を身につけ、行動できる。
- F)発信力・実践力：One Health の概念を理解し、地球規模の視点に立ってそれを普及・啓発するための知識、技能、行動力、情報発信力を身につけ、実践できる。
- G)探求力・創造力：国際的あるいは先端的な研究の意義を理解し、自らの強い探究心と行動力によって獣医学の発展や、新しい社会的価値の創出に貢献できる。

6. カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

農学部では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を達成し、ローカルマインドとグローバルマインド双方を併せ持った農学ジェネラリティを兼備し、我が国の持続可能な農林水産業の発展と地域課題解決に貢献し、主体性・積極性を醸成し、新時代を自ら切り拓き、地域及び国内外で活躍できる『農学ジェネラリティをもった実践型スペシャリスト』人材を輩出するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程編成の方針】

1. 幅広く深い教養と基本的な学習能力の獲得のため、全ての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目、課題発見科目と未来共創科目を設置する。
2. 農学ジェネラリティ（農学総合知識）涵養の視点から学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
3. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、必修専門科目、選択専門科目を設置する。
4. 数理データサイエンス・AIに関する応用基礎レベルの知識を学ぶための専門科目を設置する。
5. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
6. 実践力・応用力を育成するため、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
7. 専門技術者としての倫理観を涵養できる科目を設置する。
8. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業研究等の科目を設置する。

【実施の方針】

1. 各授業科目について、シラバスで到達目標、授業計画、成績評価基準・方法を明確にし、周知する。
2. 主体的に考える力を育成するために、アクティブ・ラーニング(双方向型授業、グループワーク、発表など)を積極的に取り入れるなど授業形態、指導方法を工夫する。
3. 成績評価基準・方法に基づき厳格な評価を行う。
4. 学位授与方針に基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。

農学科

農学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 広い知識を身に付け、自主的・総合的に考える力を養うため、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー）、英語、課題発見科目を設置する。
3. 農学総合知識（農学ジェネラリティ）を涵養するため、学部共通科目と学科共通科目を設置する。
4. 農学専門知識（スペシャリティ）を体系的に学ぶため、必修専門科目、選択専門科目を設置す

る。

5. 数理データサイエンス・AIに関する応用基礎レベルの知識を学ぶための専門科目を設置する。
6. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
7. 実践力・応用力を育成するため、フィールドにおける実践型教育科目や地域の理解と課題解決に取り組む科目等を設置する。
8. 専門分野に関わる倫理観を涵養する科目を設置する。
9. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業研究等の科目を設置する。

【教育の内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 教養教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目、未来共創科目において、必要に応じてアクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの多様な授業形態に加えて、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた多様な教育・指導方法を工夫する。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴及び学生の成長実感・満足度に係わる情報を適切に収集・分析する。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価する。
5. GPA制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
6. 学生が学修目標の達成状況についてエビデンスを持って指導・説明できるよう学修成果の可視化を行う。

獣医学科

獣医学科では、獣医学科ディプロマ・ポリシーで定められた教育を実践するため、農学部の教育課程編成および実施の方針に従って、次の通りに教育課程を編成・実施します。

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成するため、農学部の教育課程編成の方針に従って、教養教育カリキュラムを設置する。
2. 生命科学や農業、数理データサイエンス等に関する基盤知識を修得するため、農学部の教育課程編成の方針に従って、学部共通科目を設置する。
3. 獣医師としての専門的知識と技能を修得するため、獣医学モデル・コア・カリキュラムに沿って、以下の科目を設置する。

- 1) 獣医師の社会的役割を理解し、健全な倫理観を養うための科目
 - 2) 動物に係る法規や動物福祉に関する知識を修得するための科目
 - 3) 動物の体のしくみや機能を、正しく理解するための科目
 - 4) 動物の病気のなりたちや感染症を、正しく理解するための科目
 - 5) 公衆衛生や動物の衛生管理、繁殖に関する知識と技能を修得するための科目
 - 6) 病気の診断・治療・予防に関する知識や技能を修得するための科目
 - 7) それまでに修得した基礎知識や技能を実践できるようになるための科目
4. 社会の一員としての総合的な能力と社会貢献を実践するために必要な能力を涵養するため、以下の科目を設置する。
- 1) 専門分野における語学力や国際性を養うため、英語を用いた科目を設置する。
 - 2) 数理データサイエンスを用いた情報分析力、洞察力、課題探求力、論理的思考力、自己表現力、寛容性など実践的な能力を養うための科目を設置する。
 - 3) 学生自身の興味関心に基づいて、獣医学における先端的概念や、より高度な知識や技能を主体的に学び、専門性を高めるための科目を設置する。
 - 4) 産業動物分野や公衆衛生分野など、地域社会から要請の高い領域に関して、より実践的な能力を養うため、地域行政と連携した科目を設置する。
 - 5) 生命科学研究の社会的意義を理解し、その実践を通して、探究心や主体性、計画性、協調性を養うための科目を設置する。

【教育の内容・方法】

1. 教養教育カリキュラム、学部共通科目は、農学部の教育課程実施の方針に従って行う。
2. 専門科目においても、ICT やアクティブラーニングの導入など農学部の教育課程実施の方針に従って行う。
3. 知識や技能だけに囚われず、主体性、寛容性、社会貢献意欲を涵養するための工夫を行う。
4. 実践的な能力を養うため、数理データサイエンスを用いた情報分析力、洞察力、課題探求力、論理的思考力、自己表現力を涵養するための工夫を行う。
5. 宮崎県の特性を活かした実践型の獣医学教育を実施するため、地域との連携を図る。
6. 本学の特徴を活かした分野横断的かつ先端的な獣医学教育を実施するため、学内組織との連携を図る。

【学修成果の評価】

学修成果の評価は、農学部の教育課程実施の方針に従って行う。

7. 教育課程

専門科目の履修方法等

- 1 1・2年次は、全学部共通の教養教育科目を履修するのと並行して農学部設置の科目（学部共通科目・専門基盤科目・専門科目等）を履修する。
- 2 1年次ならびに3年次（獣医学科は4年次も対象）において、学部共通科目を履修する。学部共通科目は次の目標を持つ。すなわち、農学部の教育理念の中で謳っている、「社会の要請に応えるための農学に関する高度な専門性と技術を修得する」上で、基礎となる知識を身につけること。特に、高校で履修したことの理解を深め、その理解に基づいて専門科目を着実に履修できるようになること。この学部共通科目は、農学・獣医学入門、農学・獣医学グローバル入門、農学・獣医学DX入門、農学・獣医学データサイエンス演習、農学・獣医学の倫理と安全、農学・獣医学専門英語演習の6科目からなり、学科毎に設定された卒業要件及び履修指導に応じて履修する。（SPARC未来共創教育プログラムを適用する学生は当該6科目に加えて、「宮崎の地域活性化演習」を学部共通科目として追加で履修する必要がある）
また、農学科は1年次に各コースの取り扱う専門分野の基礎知識を修得するために、学科共通科目ならびに専門基盤科目と専門科目の一部を履修する。獣医学科は1年次から専門基盤科目と専門科目を履修する。
- 3 卒業に必要な単位として、教養教育科目36単位（導入科目16単位・課題発見科目および未来共創科目20単位）のほか専門科目として農学科は88単位以上、獣医学科学生は147単位（SPARC未来共創教育プログラムを適用する獣医学科学生は151単位）以上を修得しなければならない。
なお、卒業に必要な専門科目履修単位の内訳は、別表のとおりである。
- 4 単位の修得基準については、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、適切な授業形態を1種類ないし複数組み合わせ、単位数に応じた適切な内容になるように、授業科目毎に設定する。
- 5 教育職員免許法に基づく高等学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、教科に関する科目及び教職に関する専門科目についての所定の単位を修得しなければならない。
- 6 担当教員及び授業科目の内容については、年度により一部変更することがあるので注意すること。
なお、『授業科目担当教員』欄の『関係教員』については、『授業科目担当教員（関係教員）一覧表』を参照すること。

成績送付について

農学部では、学生の単位修得などの勉学状況を保証人にも共有するために、保証人に対する成績通知書の送付を行います。保証人の住所が変更になった学生は、農学部教務・学生支援係まで届け出てください。

成績評価に係る試験等における不正行為について

成績評価に係る試験等において不正行為を行った者は、「宮崎大学農学部専門科目の受講及び成績評価に関する細則」第12条により、宮崎大学学務規則及び宮崎大学学生の懲戒に関する基準及び試験等における不正行為の取扱いに関する申合せにより懲戒され、当該科目及び当該学期の科目の成績について

は認定されない場合があります。

この規定は、学生が公平に試験を受けられるように、不正行為（カンニング等）防止を目的に定められたものであるため、学生の本分として真面目に勉学し、この規定に抵触しないよう心がけて下さい。

成績指標値（GPA）の解説と注意

農学部では、学生自身が自己の学修状況を把握し、教育目標を達成するため、学修状況把握の一つの指標として成績指標値（GPA）を導入しています。GPAの目的や内容について以下に解説しますので、自己の学修状況把握に活用して下さい。

【1】GPAとは何ですか？

GPA（成績指標値）は“Grade Point Average”の略で、履修科目成績に単位数の重みづけをした平均です。“単位の実質化”の観点に基づき、4単位数科目は2単位数科目の2倍の学修が求められ、その成績も2倍の重みを付けてGPAを算出します。

学習カルテ：履修システムで用いているGPAには、“**学期GPA**”（学期毎の履修科目のGPA）、“**年間（学年）GPA**”（1年間の履修科目のGPA）、“**通算GPA**”（1年から現時点までの履修科目のGPA）の3種類があります。

【2】GPAを使う目的は？

学期GPAや年間（学年）GPAの値から、自分自身の成績の伸びや学修状況などの変化を客観的に判断することができます。また、学修の到達度を学生が数値で把握できて、自身の学業への取り組みや学修意欲の向上に繋がります。学習カルテ：履修システムには、GPA以外にも“自己成績ポジション”など自分の成績を客観的に評価できる手段が組み込まれており、GPAと共に自身の学修状況の確認に活用できます。

クラス担任等の教員がGPAにより個々の学生の学修状況を確認し、履修指導や学習アドバイスに役立てることも目的の一つです。

【3】GPAはこの計算式で計算します！

学習カルテ：履修システムで用いているGPAの計算式は、以下となっています。

$$\text{GPA} = \Sigma (\text{登録科目のGP} \times \text{その科目の単位数}) / (\text{登録科目の単位数の合計})$$

※「登録科目」は、科目登録修正期間後に確定した登録科目とする。

ただし、 $GP = (\text{受講科目の100点満点の評価点} - 54.5) / 10$

Σ は、各学期または累積の受講科目に関する合計を示します。

また、出席不足と未受験及び不合格科目（60未満）ではGP=0とします。

履修登録科目の全てをGPA対象科目とします。ただし、教育職員免許状取得のために開講している科目は対象から除きます。

【GPAの計算例】

科目名	単位数	評価点	GP	GP×科目単位数
△△学	2	85	$(85-54.5)/10=3.05$	$3.05 \times 2=6.10$
〇〇学	2	68	$(68-54.5)/10=1.35$	$1.35 \times 2=2.70$
□□実験	1	51	54.5未満=0	$0 \times 1=0$
**研究	4	92	$(92-54.5)/10=3.75$	$3.75 \times 4=15.00$
合計	9			23.80

よって、 $GPA=23.80/9=2.64$ （小数点3位以下を切り捨て）

学期GPAは、各学期で登録した全科目（教育職員免許状取得のために開講している科目を除く）を対象に学期毎に計算した値です。年間（学年）GPAは、1年間に登録した全科目を対象に年次毎に計算した値です。通算GPAは、1年次から現在在学している年次の学期までに履修した全科目から計算した値です。

GPAでは、出席不足と未受験及び不合格となった科目はGPが0点として集計の計算対象としています。安易にたくさんの科目を履修登録して、実際には受講しない場合は0点評価の科目が増えてGPAが低くなります。科目登録した科目は、しっかりと学習をして単位を取得することがGPAを下げないために重要となります。

[4] 科目履修登録の“取り下げ”は修正期間内に必ず行おう！

科目登録した科目の履修を中止にする場合、**科目履修登録の修正期間内に「履修登録削除」を行って下さい。**履修登録削除手続きにより登録削除を行わない場合、その科目のGPは0となりGPAが下がります。

ただし、集中講義や学外（体験）実習、獣医インターンシップのように講義日程が修正期間内に決定されていなかった科目が既に履修中の他の科目と重複することとなった場合など、やむを得ない事由で科目履修登録の修正期間後に削除を希望する場合は、やむを得ない事由の発生後（例えば集中講義日程の決定後）2週間以内に農学部教務・学生支援係にて手続きを行って下さい。（農学部では科目登録の削除の取り扱いに関する申合せが別途定められています。）

[5] GPAはどのように利用されるのですか？

(1) 学生自身の活用

学期毎のGPAが計算されるので、自身の学修成果の履歴を把握できて、学業の自己点検や自己管理に役立ちます。

(2) 学生指導の利用

成績不振となっている学生に対する指導に活用されます。極端にGPAが低い場合、クラス担任や指導教員により学生指導を行うことがあります。

(3) 学生表彰等への活用

優秀学生の表彰等の基準の一つとして、利用しています。

[6] GPAの数値の目安は？

GPAは0～4.55の範囲の数値となります。学修状況を自己点検する場合は、以下を目安にして下さい。GPAが高いほど良い学修状況で推移していると判断して下さい。

GPA	1ポイント台	2.5ポイント前後	3.0ポイント前後	3.5ポイント以上
成績レベルの目安	かなり低いレベルですので、集中して学習する必要があります。	平均的レベルですが、さらに学習の努力が必要です。	かなり優れたレベルですので、さらに向上させる目標を持ちましょう。	優秀なレベルですので、継続してポイントを維持しましょう。

[7] GPAを確認する方法は？

学習カルテ：履修システムにログインし、「既修得科目状況確認」機能の開講科目表ベースの画面で自分のGPAを確認することができます。

コース配属について（農学科）

農学科学生は、入学時に合格したコースに仮配属され、1年次は学科共通の基盤となる基礎的な学問体系にかかる理解を深め、キャリアデザインについても意識を高めていく期間に充てています。2年進級時に各コースへ本配属となり、専門性を高めていきます。

仮配属コースから別のコースへの配属を希望する場合について（農学科）

基本的には仮配属コースと同じコースに本配属されますが、一般選抜での合格者は、各コースの定める追加受入上限数の範囲内（各コース若干名）で、2年進級時に仮配属コースとは違うコースにコース移動することも可能です。コース移動希望者数が追加受入上限を超過した場合には、農学部が定めた基準による成績順に、追加受入上限数に達するまで配属します。なお、学校推薦型選抜及び総合型選抜（一般枠・帰国生徒枠・社会人枠・私費外国人留学生枠）での合格者は、仮配属コースとは異なるコースへの本配属を希望することはできません。

仮配属コースから別のコースへの配属を希望する場合は、下記のスケジュールに基づく。

- 4月 新入生オリエンテーションにおいてコース配属全般について説明
- 5月 仮配属コースから別のコースへの配属を希望する場合について申請方法を改めて通知。その際に農学科各コースでの受入人数を通知。
- 11月 教務・学生支援係への事前相談締切
- 12月 仮配属コース担任教員及び配属を希望するコース担任への事前相談締切
- 翌2月 webclass からコース移動申請の様式を取得し、申込。
- 翌3月 修得単位数等申請資格の確認（教務・学生支援係）
教務委員会での決定。希望学生への結果通知。
※1年次に30単位以上修得できなければ別のコースへの配属は許可されません。
※受入定員を希望学生が超過した場合には、1年次の成績によっては、受入が認められない場合があります。
※詳細なスケジュール・申請方法等については5月頃を目処に掲示等で連絡を行います。

関係する申合せ

農学科生のコース配属に関する申合せ

農学科入学時に仮配属されたコースから別のコースへの配属（コース移動）を希望する学生の取扱いに関する申合せ については

(<https://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/student/post-1.html>) に掲載されています。

卒業研究の履修方法

卒業研究は、農学科においては4年次通年のコース専門必修科目（8単位）、獣医学科においては5-6年次通年の学科専門必修科目（8単位）です。卒業研究の履修方法をここにまとめます。個別具体的な卒業研究に関する疑問や相談は、クラス担任または指導教員に質問してください。

（1）農学科

- 1) 3年進級時に研究室配属を行うと同時に、主指導教員・副指導教員を原則それぞれ1名決定します（農学科生の研究室配属方法に関する申合せ参照）。
卒業研究の履修期間は公式には4年次（通年）ですが、3年次の研究室配属時以降、卒業研究に向けての事前準備や事前学習、研究計画策定、研究の実施等、指導教員のアドバイスのもとで進めます。
- 2) 4年進級時に、卒業研究科目登録に係る要件（＝卒業に必要な総単位のうち86単位以上を修得すること）を満たす学生は、卒業研究の科目登録を行い、卒業研究に取り組みます。（宮崎大学農学部卒業研究科目登録に係る要件及び参加型臨床実習受講に係る要件等に関する要項参照）
- 3) 卒業研究は、指導教員のアドバイスのもと、研究テーマと研究計画を策定し、研究を実施し、4年次末にコースごとに実施される卒業研究発表会での発表と卒業論文の提出を行い、成績評価結果が規定の水準を満たすことで単位修得できます。各コース、3年次の新学期オリエンテーションで配布する「卒業研究ルーブリック表」に則り、卒業研究の取組過程・研究発表・卒業論文について評価がなされます。卒業研究発表会と卒業論文提出時期の目安は4年次の2月（3月卒業の場合）ですが、具体的な日程は4年次後期に各コースから卒業研究履修学生に連絡します。また発表スタイルや卒業論文執筆要領についても各コースから案内があります。
- 4) 卒業研究は指導教員のアドバイスのもと行われますが、あくまで研究の実施主体は学生です。意欲的かつ主体的に取り組んでください。

（2）獣医学科

- 1) 要件を満たし4年次に進級した学生は（進級要件については宮崎大学農学部専門科目の受講及び成績評価に関する細則を参照）、研究室に配属します（獣医学科生の研究室配属方法に関する申合せ参照）。なお、4年次では卒業研究には着手しませんが、その準備段階として配属した研究室で開講される専修実験を履修してください。
- 2) 要件を満たし5年次に進級した学生は（進級要件については宮崎大学農学部専門科目の受講及び成績評価に関する細則を参照）、卒業研究への取り組みを開始します。卒業研究にかかる事前準備・事前学習、研究計画の策定および研究の実施等については、主指導教員と副指導教員（5年次に正式決定し、後者は他の研究室の獣医学科関連教員であること）のアドバイスを仰ぎながら学生自身が主体的かつ意欲的に取り組む必要があります。
- 3) 6年次に進級した学生は卒業研究の科目履修登録を行います。原則その年の11月下旬に開催される卒業論文審査会において、主指導教員の指導を受けて作成し承認された卒業論文を学科に提出し、その発表を行います。卒業論文ルーブリック表に基づいて、卒業研究への取組過程・研究発表・卒業論文について評価が行われ、最終的に獣医学科関連教員の合議により合否判定が行われます。

ディプロマポリシー(DP) 記号一覧表

カリキュラム表内にある「DP」と記載された列には、各授業科目とDPとの関係を下記の記号で表しています。

記号	項目	説明
A	農学俯瞰力	農学獣医学に関する幅広い知識や技術に基づく思考や判断ができる。
B	データ運用力	数理・データサイエンス・AIに関する応用基礎レベルのデータ運用ができる。
動C	動植物生産活用力	動植物の生産や農業に関する専門知識と技能を有し、持続可能な食料供給に活用できる。
動D	動植物生態・環境活用力	動植物の生態や環境に関する専門知識と技能を有し、環境の保全と調和に活用できる。
動E	動植物生命・食品活用力	動植物資源の生命現象や食品分野への応用に関する専門知識と技能を有し、健康で豊かな暮らしの実現に活用できる。
森C	環境持続性基礎・応用力	森林・緑地および関連する生物・非生物材料、国土保全、水資源利用に関する広い知識を修得し、持続可能な社会の実現に応用することができる。
森D	環境持続性解決力	里地・里山で生じている国内および国際的な諸問題に対して、具体的な課題を見つけ出し、その解決方法を提案できる。
森E	環境持続性実践力	生産と保全を調和させた持続可能な地域社会を実現するために、様々な関係者とコミュニケーションをとり協働して対策を実践することができる。
海C	理解力	海洋生命科学に関する基礎知識:海洋生命に関わる様々な現象を理解する上で必要な生物と化学の基礎知識を理解し専門分野に応用できる。
海D	応用力	海洋生命科学に関する専門知識:生態環境学、増養殖学、応用生理病理学、生物資源化学の各領域に関する専門知識を理解し、それを問題解決に応用できる。
海E	実行力	専門分野で修得した知識を地域社会や国際社会で活躍できる能力:専門分野で修得した知識・技術を活用し、地域社会や国際社会で海洋に関わる諸問題を他と協力し解決できる。
応C	基礎理解力	生命化学に関する基礎知識:生命現象を理解する上で必要な化学と生物の知識を深化させることができる。
応D	応用力	応用生命化学に関する知識:応用生物化学、食品化学、生物工学の各領域に関する基礎および専門知識を理解し、それを問題解決に応用できる。
応E	実践力	あらゆる状況下で計画的に仕事を進め、まとめる力:応用生命化学に関する課題解決のための筋道をデザインし、自立して仕事を計画的に進め、期限内に終わることができる。
獣C	理解力・判断力	動物福祉について基本的な精神と概念を身に付けるとともにグローバルな基準と動物福祉に関する諸問題を理解し、説明できる。
獣D	応用力・行動力	動物組織の構造や機能、病態・疾患、感染症、公衆衛生、診断・治療・予防など、獣医師に必要な専門知識と、健全な倫理観を身につけ、健全な倫理観をもって行動できる。
獣E	課題設定力・洞察力・論理的思考力・共感力・表現力	獣医師の社会的役割を理解し、それを実践するための基本的技能、洞察力、課題探求力、論理的思考力、協調性、計画性、コミュニケーション力を身につけ、行動できる。
獣F	発信力・実践力	One Healthの概念を理解し、地球規模の視点に立ってそれを普及・啓発するための知識、技能、行動力、情報発信力を身につけ、実践できる。
獣G	探求力・創造力	国際的あるいは先端的な研究の意義を理解し、自らの強い探究心と行動力によって獣医学の発展や、新しい社会的価値の創出に貢献できる。

アクティブラーニング(AL) 番号一覧表

カリキュラム表内にある「AL」と記載された列には、各授業科目がどのようなアクティブラーニングを取り入れているかを下記の番号で表しています。なお、記載されたアクティブラーニングは、毎回の授業に取り入れられているものに限らず、一部の授業のみに取り入れられているものも含まれます。

また、アクティブラーニングの種類や方法は、今後の見直しなどにより、変更されることがあります。

番号	方法
1	少人数(10人程度)
2	双方向(対話・討論)
3	グループワーク
4	フィールド型
5	メディア活用
6	TA活用
7	チームワーク、コミュニケーション能力もしくは課題発見・解決力の育成
8	演習, 実験, 実習もしくは実技

別表 卒業に必要な専門科目履修単位一覧表

区分		農学科				獣医学科
		動植物資源生命科学コース	森林環境持続性科学コース	海洋生命科学コース	応用生命化学コース	
学部共通科目	必修科目	11[13]単位	11[13]単位	11[13]単位	11[13]単位	7[11]単位
	選択科目	—				2[0]単位
学科共通科目	必修科目	4単位	4単位	4単位	4単位	—
	選択科目	6単位	6単位	6単位	6単位	
専門基盤科目	必修科目	13単位	14単位	6単位	22単位	6単位
	選択科目	1単位	—	C	—	—
専門科目	必修科目	12単位	8単位	36単位	24単位	126単位
	選択科目	41[39]単位 A	45[43]単位 B	C	2単位 (選択実験・実習科目) 19[17]単位 D	2単位 (アドバンス 畜産・獣医学発展科目) 4単位 (アドバンス科目) (※SPARC生は上記の他に所定の専門科目2単位を履修)
必修単位合計		40[42]単位	37[39]単位	57[59]単位	61[63]単位	139[143]単位
選択単位合計		48[46]単位	51[49]単位	31[29]単位	27[25]単位	8[8]単位
総合計		88単位	88単位	88単位	88単位	147[151]単位

A 動植物資源生命科学コースのカリキュラム表の末尾にある備考欄を参照すること。

B 森林環境持続性科学コースのカリキュラム表の末尾にある備考欄を参照すること。

C 海洋生命科学コースのカリキュラム表の末尾にある備考欄を参照すること。

D 応用生命化学コースのカリキュラム表の末尾にある備考欄を参照すること。

[]内はSPARC未来共創教育プログラムに適用される単位数である。同プログラム生は「宮崎の地域活性化演習(2単位)」を追加受講すること。同プログラムを適用する獣医学科生はさらに、所定の専門科目を選択科目として2単位追加受講すること。(※「SPARC未来共創教育プログラムについて」を参照)

※カリキュラム表内の「開講」欄は、主に担当する教員が所属する学科・コースを示す。

共：学部共通科目 動：動植物資源生命科学コース 森：森林環境持続性科学コース
海：海洋生命科学コース 応：応用生命化学コース 獣：獣医学科

※カリキュラム表内の「担当教員」欄に、他学部教員が担当している場合は所属する学部を示す。

[E]：教育学部 [R]：地域資源創成学部 [En]：工学部 [M]：医学部

※カリキュラム表内の「順次性」欄は、カリキュラム内の科目の進度を示す。

入：入門レベル 基：基礎レベル 発：発展レベル 応：応用レベル

※カリキュラム表内の「教職科目」欄は、教員免許取得における「教科及び教科の指導法に関する科目」として指定されている科目である。(詳細は「8.教員免許状及びその他の資格取得について」を参照)

農：農業(高一種)免許科目 水：水産(高一種)免許科目 理：理科(高一種)免許科目

農学科 動植物資源生命科学コース

1. 学部共通科目・学科共通科目

区分	授業科目	開講	単位数		開講時期		授業形態	DP	AL	順次性	教職科目	担当教員	備考	
			必修	選択	学年	時期								
学部共通科目	農学・獣医学入門	共	2		1年	前期	講義	A		入		関係教員		
	農学・獣医学グローバル入門	共	2		1年	前期	講義	A	3	入		関係教員		
	農学・獣医学DX入門	共	2		1年	前期	講義	B		入		関係教員		
	農学・獣医学データサイエンス演習	共	2		3年	前期	実習	B		応		関係教員		
	農学・獣医学の倫理と安全	共	1		3年	前期	講義	A		応		関係教員		
	農学・獣医学専門英語演習	共	2		3年	通年	実習	A		応		関係教員		
学科共通科目	必修科目	食資源学入門	共	2		1年	前期	講義	A	5	入		関係教員	
		農学基礎実験・実習Ⅰ	共	1		1年	前期	実習	A	2,3,4,5,6,7,8	入		関係教員	
		農学基礎実験・実習Ⅱ	共	1		1年	後期	実習	A	2,3,4,5,6,7,8	入		関係教員	
	選択科目	基礎動植物学	動		2	1年	後期	講義	A	5	基	理・生	関係教員	*学科共通選択科目から3科目(6単位)修得すること。
		アグリイノベーション概論	動		2	1年	後期	講義	A	5	基		関係教員	
		GAP概論	動		2	1年	後期	講義	A	5	基	農	木下	
		動物行動学	動		2	1年	後期	講義	A		基	理・生	坂本	
		基礎環境資源経済学	森		2	1年	後期	講義	A		基		藤掛	
		環境気象学	森		2	1年	後期	講義	A	8	基	理・地	竹下(伸)	
		生命化学概論	応		2	1年	後期	講義	A		基	理・生	吉田(十) 山崎(正) 榊原	
		化学概論	応		2	1年	後期	講義	A	5,8	基	理・化	服部 榊原	
		基礎海洋資源科学	海		2	1年	後期	講義	A	3	基	理・化	林(康)	
		基礎行動・生態学	海		2	1年	後期	講義	A	3	基	理・生	和田 深見	
九州沖縄農林水産学	共		2	1年	後期	講義	A		基		関係教員 (連携科目)			

農学科 動植物資源生命科学コース

2. コース専門基盤科目・コース専門必修科目

区分	授業科目	開講	単位数		開講時期		授業形態	DP	AL	順次性	教職科目	担当教員	備考	
			必修	選択	学年	時期								
コース専門基盤科目	必修科目	宮崎の農業	動	1		1年	後期	講義	動C		基		中村	
		栽培学	動	2		2年	前期	講義	動C	5	基	農	湯浅 松尾 中村	
		動物環境管理学	動	2		2年	前期	講義	動D		基	農	徳永	
		土壌肥科学	動	2		2年	前期	講義	動D		基	理・地	佐伯 井戸田	
		農業経済学	動	2		2年	前期	講義	動C	7	基	農	狩野	
		畜産食品科学	動	2		2年	後期	講義	動E	5	基	農	河原	
		植物育種学	動	2		2年	後期	講義	動E		基	理・生	國武 田中(秀) 権藤	
	選択科目	農場実習 I	動		1	2年	前期	実習	動C	4, 7, 8	基	農	関係教員	いずれかの 実習を1単 位修得す ること。牧 場実習 I は通年 集中
		牧場実習 I	動		1	2年	通年	実習	動C	3, 4, 6, 7, 8	基	農	小林 石垣	
コース専門必修科目	動植物資源生命科学専門 実験・実習 I	動	2		3年	前期	実験	A	1, 2, 3, 4, 7, 8	応		関係教員	集中 研究室単 位で実施	
	動植物資源生命科学専門 実験・実習 II	動	2		3年	後期	実験	A	1, 2, 3, 4, 7, 8	応		関係教員	集中 研究室単 位で実施	
	卒業研究	動	8		4年	通年	実験			応		関係教員		

農学科 動植物資源生命科学コース

3. コース専門選択科目 (1)

区分	授 業 科 目	開講	単位数		開講時期		選択必修	授業形態	DP	AL	順次性	教職科目	担当教員	備 考	
			必修	選択	学年	時期									
コース専門選択科目	園芸生産ユニット	果樹園芸学総論	動		2	2年	前期	A群	講義	動C	5	基	農	本勝	
		施設園芸学	動		2	2年	前期	A群	講義	動C	5	基	農	霧村	
		植物生理学	応		2	2年	前期		講義	動E		基	理・生	稲葉(丈)	
		植物生産科学実験 I	動		1	2年	前期	B群	実験	動C	3,4,6,8	基	理・実	関係教員	
		野菜園芸学総論	動		2	2年	後期	A群	講義	動C		基	農	増田	
		花き園芸生理学	動		2	2年	後期	A群	講義	動E	7	基	理・生	稲葉(靖)	
		果樹園芸生理学	動		2	2年	後期		講義	動E	5	基	理・生	本勝	
		植物生産科学実験 II	動		1	2年	後期	B群	実験	動C	3,6,8	基	理・実	関係教員	
		農場実習 II	動		1	2年	後期	B群	実習	動C	4,7,8	基	農	関係教員	
		野菜園芸学各論	動		2	3年	前期		講義	動C	5	発	農	増田	
		栽培植物起源論	動		2	3年	前期		講義	動C	5	発	農	宇田津	
		果樹園芸学各論	動		2	3年	前期		講義	動C	5	発	農	本勝	
		企画実習	動		1	2年	通年	B群	実習	動C	4,8	基	農	松尾 中村	
		フィールド実践実習 (農場)	動		2	3年	通年	B群	実習	動C	4,8	発		関係教員	
	プラントユニット	昆虫生態学	動		2	2年	前期	A群	講義	動D	5	基	理・生	安達	
植物病理学総論		動		2	2年	前期	A群	講義	動D		基	理・生	竹下(稔)		
雑草防除学		動		2	2年	後期	A群	講義	動D	5	基	農	松尾		
植物病理学各論		動		2	2年	後期		講義	動D		発	理・生	竹下(稔)		
総合的害虫管理学		動		2	3年	前期		講義	動D	5	発	理・生	安達		

農学科 動植物資源生命科学コース

4. コース専門選択科目 (2)

区分	授 業 科 目	開講	単位数		開講時期		選択必修	授業形態	DP	AL	順次性	教職科目	担当教員	備 考	
			必修	選択	学年	時期									
コース専門選択科目	次世代アグリユニット	農地環境工学	動		2	2年	前期		講義	動C	6	基	理・地	宇田津	
		草地生産・土壌肥料学実験	動		1	2年	前期	B群	実験	動C	3, 4, 6, 8	基	農	佐伯 飛佐 井戸田 安在	
		植物遺伝資源・育種学実験	動		1	2年	後期	B群	実験	動E	3, 4, 6, 8	基	理・実	國武 平野 田中(秀) 権藤	
		草地植生管理学	動		2	3年	前期	A群	講義	動D		基	農	飛佐	
		植物遺伝資源学	動		2	3年	前期	A群	講義	動E		発	農	平野 田中(秀)	
		植物栄養生化学	動		2	3年	後期	A群	講義	動E		発	農	山本(昭)	
		遺伝子工学	海		2	3年	後期		講義	動E	2, 5	発	理・生	河野	
		作物生産学	動		2	3年	後期		講義	動C	5	発	農	湯淺	
		野生動物学実験	動		1	3年	後期	B群	実験	動D	3, 4, 6, 8	発		坂本	集中
	スマート農業・農業DXユニット	生物生産機械学	動		2	2年	後期		講義	動C	5	基	理・物	槐島	
		動植物生産データサイエンス	動		2	2年	後期	A群	講義	B	3, 5	基		圖師 槐島 日吉 霧村	
		生物計測工学	動		2	3年	前期		講義	動C	7	発	理・物	日吉	
		生産流通施設学	動		2	3年	前期		講義	動C		発	農	木下	
		動植物生産データエンジニアリング	動		1	3年	後期	B群	実験	B	3, 4, 7, 8	基		関係教員	
		社会統計学	動		2	3年	後期		講義	B	7	発	農	狩野	

農学科 動植物資源生命科学コース

5. コース専門選択科目 (3)

区分	授 業 科 目	開講	単位数		開講時期		選択必修	授業形態	DP	AL	順次性	教職科目	担当教員	備 考
			必修	選択	学年	時期								
農畜産食品開発ユニット	園芸利用学	動		2	2年	後期	A群	講義	動E	3,5,7	発	農	圖師	
	衛生微生物学	動		2	2年	後期	A群	講義	動E	7	基	理・生	井口	
	農畜産食品開発学実験	動		1	3年	前期	B群	実験	動E	3,4,6,8	基		河原 圖師 仲西 井口	
	畜産食品製造学	動		2	3年	前期	A群	講義	動E		発	農	仲西	
	青果代謝生理学	動		2	3年	前期		講義	動E	5,7	発	理・化	圖師	
	食品衛生学	動海		2	3年	前期		講義	動E		発		引間 河原 井口	
	公衆衛生学	海		2	3年	前期		講義	動E	2,5	発		河野	
	分析化学	動		2	3年	後期		講義	動E		発	理・化	佐伯	
	農産食品製造学	応		2	3年	前期		講義	動E		発	農	小川 横山	
	水産化学	海		2	3年	前期		講義	動E		発	理・化	田中(竜)	
	食品保蔵化学	動		2	3年	後期		講義	動E	5	発		河原	
	食品製造学	応		2	3年	後期		講義	動E		発	農	山崎(正) 小川	
	水産食品製造学	海		2	3年	後期		講義	動E	5,7	発	(水)	田中(竜)	
	農業経営・実践ユニット	国際農業論	動		2	3年	前期		講義	動C		発		西[R]
農業経営学		動		2	3年	前期		講義	動C	5	発	農	山本(直)	
GAP指導員講座		動		1	3年	通年		講義	動C	3,5,8	発		非常勤講師	集中(隔年)
農業・社会調査実習		動		1	3年	前期	B群	実習	動C	4,7,8	発	農	山本(直) 狩野 宇田津	
学外体験実習		動		2	2-3年	通年		実習	動C	4,7,8	基		関係教員	集中
スマート農業 インターンシップ		動		1	2-3年	通年		実習	動C	4,7,8	基		関係教員	集中

農学科 動植物資源生命科学コース

6. コース専門選択科目 (4)

区分	授 業 科 目	開講	単位数 必修 選択	開講時期		選択 必修	授業 形態	DP	AL	順 次 性	教職 科目	担当教員	備 考
				学年	時期								
動物生産ユニット	動物育種資源学	動	2	2年	前期		講義	動E	5	基	理・生	井上(慶) 石田	
	動物生殖生理学	動	2	2年	後期	A群	講義	動E		発	農	續木 右京	
	家畜栄養学	動	2	2年	後期	A群	講義	動C		基	農	高橋 西村	
	動物生殖制御学	動	2	3年	前期	A群	講義	動E		発	理・生	續木 右京	
	飼料学	動	2	3年	前期		講義	動C		基	農	高橋 西村	
	実験動物学各論	動	1	3年	前期		講義	動E	1, 2	応		越本 篠原(明) 坂本	
	動物福祉学	動	2	3年	後期		講義	動D		基		関係教員	
	家畜栄養学実験	動	1	2年	後期	B群	実験	動C	3, 7, 8	基		高橋 西村	
	家畜・動物園動物管理 実習	動	1	3年	前期	B群	実験	動D		基		坂本 徳永	集中
	動物育種学	動	2	3年	前期	A群	講義	動E	5	発	農	井上(慶)	
	動物生殖生理学実験	動	1	3年	後期	B群	実験	動E	8	応	理・実	續木 右京	
	動物遺伝育種学実験	動	1	3年	後期	B群	実験	動C	4, 6, 7, 8	応		井上(慶) 石田	
	牧場実習Ⅱ	動	1	3年	通年	B群	実習	動C	4, 8	応	農	小林 石垣	通年集中
	実験動物学実習	動	1	4年	通年	B群	実験	動E	1, 2, 3, 8	応		越本 篠原(明) 名倉	集中
飼料作物生産ユニット	作物学総論	動	2	2年	前期		講義	動C	5	基	農	湯浅	
	草地畜産論	動	2	2年	前期		講義	動C		基	農	石垣	
	飼料作物学	動	2	2年	前期	A群	講義	動C	5	基	農	井戸田	
	草地と草食獣の生態学	動	2	2年	後期	A群	講義	動D		基	理・生	安在	
	草類利用学	動	2	2年	後期	A群	講義	動C		基		新美	
	草類利用学実験	動	1	2年	後期	B群	実験	動C	3, 7, 8	基		新美	

農学科 動植物資源生命科学コース

7. コース専門選択科目 (5)

区分	授 業 科 目	開講	単位数		開講時期		選択必修	授業形態	DP	AL	順次性	教職科目	担当教員	備 考
			必修	選択	学年	時期								
コース専門選択科目 その他**	農業科教育法Ⅰ	共		2	3年	前期		講義	A		応	農	宇田津 非常勤講師	
	農業科教育法Ⅱ	共		2	3年	後期		講義	A		応	農	非常勤講師	
	動物解剖学Ⅰ	獣		2	3年	前期		講義	動E		基		保田 脇谷	
	動物解剖学Ⅱ	獣		2	3年	前期		講義	動E		発		保田 脇谷	
	動物解剖学実習	獣		1	3年	前期		実験	動E		基		保田 脇谷	集中
	実験動物学	獣		2	3年	前期		講義	動E		基		関係教員	
	動物生理学Ⅰ	獣		2	2年	前期		講義	動E	2, 5	基		井田 丸山	
	動物生理学Ⅱ	獣		2	3年	後期		講義	動E	2, 5	発		井田 丸山	
	薬理学Ⅰ	獣		2	3年	後期		講義	動E	2, 5	発		池田 園田	
	毒性学	獣		2	4年	後期		講義	動E	2, 5	発		池田 園田	
	動物衛生学	獣		2	3年	前期		講義	動E		発		上村	

(注意) 科目の担当教員は変更になることがある。

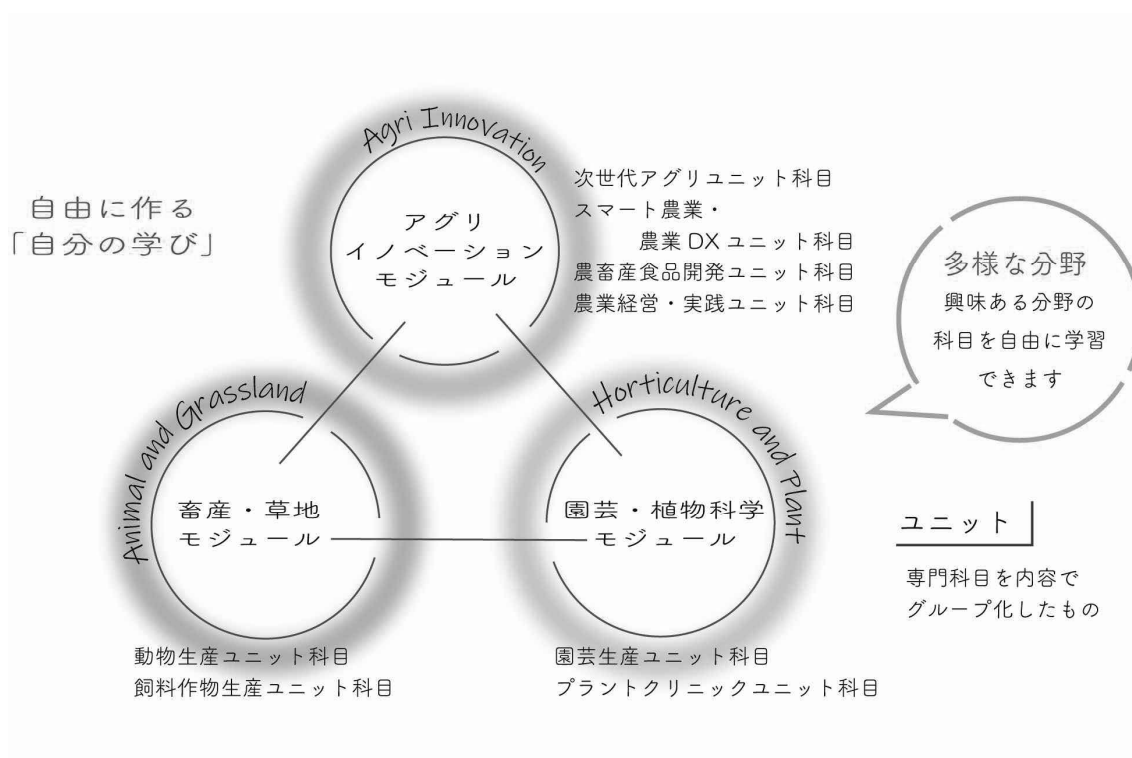
* 学科共通選択科目群の中から3科目(6単位)を履修しなければならない。ただし、6単位を超える分の単位については2科目(4単位)まで卒業に必要な専門科目(選択科目)の単位に含めることができる。

** 「その他」の科目は、当該科目に係る資格の取得を目指す学生を受講対象者とする。

専門科目の選択科目はA群科目から7科目14単位以上、B群科目から2科目2単位以上を履修し、他の選択科目と合わせて合計41単位 (SPARC未来共創教育プログラムを適用する学生においては39単位) 以上を履修しなければならない。また、動植物資源生命科学コースのカリキュラム表に記載された科目以外に、農学科の他コースに記載された科目の中から8単位までを卒業要件の専門科目(選択科目)の単位に含めることができる。

モジュール・ユニット制とは(農学科動植物資源生命科学コース)

学習の道標となる履修モデルのことです。農学科動植物資源生命科学コースにおいては、アグリノベーションモジュール、畜産・草地モジュール、園芸・植物科学モジュールの3つを設け、それぞれのモジュールの中に専門科目を学びの内容でグループ化した「ユニット」を設けています。



3つのモジュールには、将来の進路に合わせて、学んでほしい推奨科目を設定しています。想定している自分の進路や夢に合わせて、モジュールの推奨科目を受講するとともに、関連するユニットの科目を自由に学びます。大まかに、次のようにイメージしてもらえると良いかと思います。

- 動物や畜産・草地を学びたい人は、「畜産・草地モジュール」
 - 園芸や植物を学びたい人は、「園芸・植物科学モジュール」
 - スマート農業や食品開発、持続的農業を学びたい人は、「アグリイノベーションモジュール」
- 一つの分野にとらわれることなく、複数の分野を学ぶことも出来ますので、将来をしっかりと考えながら学ぶ科目を考えることが重要となります。

詳しくは、WebClass に「動植物資源生命科学コースの学び方」資料を掲載していますので参照してください。

農学科 森林環境持続性科学コース

1. 学部共通科目・学科共通科目

区分	授業科目	開講	単位数		開講時期		授業形態	DP	AL	順次性	教職科目	担当教員	備考	
			必修	選択	学年	時期								
学部共通科目	農学・獣医学入門	共	2		1年	前期	講義	A		入		関係教員		
	農学・獣医学グローバル入門	共	2		1年	前期	講義	A	3	入		関係教員		
	農学・獣医学DX入門	共	2		1年	前期	講義	B		入		関係教員		
	農学・獣医学データサイエンス演習	共	2		3年	前期	実習	B		応		関係教員		
	農学・獣医学の倫理と安全	共	1		3年	前期	講義	A		応		関係教員		
	農学・獣医学専門英語演習	共	2		3年	通年	実習	A		応		関係教員		
学科共通科目	必修科目	食資源学入門	共	2		1年	前期	講義	A	5	入		関係教員	
		農学基礎実験・実習Ⅰ	共	1		1年	前期	実習	A	4, 7, 8	入		関係教員	
		農学基礎実験・実習Ⅱ	共	1		1年	後期	実習	A	2, 3, 4, 7, 8	入		関係教員	
	選択科目	基礎動植物学	動		2	1年	後期	講義	A	5	基	理・生	関係教員	
		アグリノベーション概論	動		2	1年	後期	講義	A	5	基		関係教員	
		GAP概論	動		2	1年	後期	講義	A	5	基	農	木下	
		動物行動学	動		2	1年	後期	講義	A		基	理・生	坂本	
		基礎環境資源経済学	森		2	1年	後期	講義	A		基		藤掛	
		環境気象学	森		2	1年	後期	講義	A	8	基	理・地	竹下(伸)	*学科共通選択科目から3科目(6単位)修得すること。
		生命化学概論	応		2	1年	後期	講義	A		基	理・生	吉田(十) 山崎(正) 榊原	
		化学概論	応		2	1年	後期	講義	A	5, 8	基	理・化	服部 榊原	
		基礎海洋資源科学	海		2	1年	後期	講義	A	3	基	理・化	林(康)	
		基礎行動・生態学	海		2	1年	後期	講義	A	3	基	理・生	和田 深見	
		九州沖縄農林水産学	共		2	1年	後期	講義	A		基		関係教員 (連携科目)	

農学科 森林環境持続性科学コース

2. コース専門基盤科目・コース専門科目（必修科目・選択科目（1））

区分	授業科目	開講	単位数		開講時期		授業形態	DP	AL	順次性	教職科目	担当教員	備考	
			必修	選択	学年	時期								
コース専門基盤科目	森林環境持続性科学概論	森	2		1年	前期	講義	森C		基		関係教員		
	環境計測学	森	2		1年	後期	講義	森C		基		関係教員		
	景観生態学	森	2		1年	後期	講義	森D		基	農	伊藤 光田		
	木本植物組織学	森	2		2年	前期	講義	森C		基	理・生	雉子谷		
	樹木学	森	2		2年	前期	講義	森C	5	基	農	高木		
	森林生態学	森	2		2年	前期	講義	森C		基	理・生	伊藤 平田 高木		
	環境防災学	森	2		2年	前期	講義	森C		基	理・地	篠原		
コース専門科目	必修科目 卒業研究	森	8		4年	通年				応		関係教員		
	選択科目	基礎数学	森		2	2年	前期	講義	森C	7,8	発		中園 櫻井	
		基礎物理学	森		2	2年	前期	講義	森C	8	発	理・物	竹下(伸)	
		樹木学実習	森		2	2年	前期	実習	森C	4	発	農	高木 瀬戸	一部集中
		木本植物組織学実験	森		2	2年	前期	実験	森D	3,5, 7,8	発	理・実	雉子谷	
		森林計測学	森		2	2年	後期	講義	森C		発	農	光田	
		構造力学	森		2	2年	後期	講義	森C	5,7, 8	発	理・物	中園	
		森林経済学	森		2	2年	後期	講義	森C		発	農	藤掛	
		砂防学	森		2	2年	後期	講義	森C		発	理・地	篠原 小柳	
		土質力学	森		2	2年	後期	講義	森C	8	発	理・物	櫻井	
		樹木生態生理学	森		2	2年	後期	講義	森C		基	理・生	伊藤 平田	
		樹木細胞生物学	森		2	2年	後期	講義	森C		基		非常勤講師	
		森林計測学実習	森		2	2年	後期	実習	森D	3,4, 7,8	発	農	光田	一部集中

農学科 森林環境持続性科学コース

3. コース専門選択科目(2)

区分	授業科目	開講	単位数		開講時期		授業形態	DP	AL	順次性	教職科目	担当教員	備考
			必修	選択	学年	時期							
コース専門科目 選択科目	測量学	森		2	3年	前期	講義	森C	7, 8	発	農	中園 櫻井	
	造林学	森		2	3年	前期	講義	森C		発	農	伊藤	
	森林利用学	森		2	3年	前期	講義	森C	5, 8	発	農	櫻井	
	森林政策学	森		2	3年	前期	講義	森C		発	農	藤掛	
	水理学	森		2	3年	前期	講義	森C	8	発	農	竹下(伸)	
	農山村環境計画学	森		2	3年	前期	講義	森C	5, 7	発	農	中園	
	農地環境工学	動		2	3年	前期	講義	森C		発	理・地	宇田津	
	環境材料学演習	森		2	3年	前期	演習	森C	3, 5, 7, 8	発	理・実	中園	
	森林資源利用科学	森		2	3年	前期	講義	森C		応	農	雫子谷 非常勤講師	
	測量学実習	森		1	3年	前期	実習	森C	3, 4, 7, 8	応	農	中園 櫻井	
	木材工学	森		2	3年	後期	講義	森C		発		雫子谷	
	森林計画学	森		2	3年	後期	講義	森E	3, 7	発	農	光田	
	森林保護学	森		2	3年	後期	講義	森C		発	農	平田	
	水資源管理学	森		2	3年	後期	講義	森C	2, 8	応	理・地	竹下(伸)	
	環境空間情報学	森		2	3年	後期	講義	森C	4, 6, 7, 8	応	農	篠原 小柳	
	応用力学・水理学	森		2	3年	後期	講義	森C	7, 8	応	理・物	中園 竹下(伸)	
	森林応用生態学	森		2	3年	後期	講義	森D		応	農	徳本	
	森林資源利用科学実験	森		1	3年	後期	実験	森D	3, 5, 7, 8	応	理・実	雫子谷	
	森林土木学実習	森		2	3年	後期	実習	森C	1, 3, 4, 7, 8	応	農	櫻井	
	植生調査実習	森		2	3年	後期	実習	森C	4	応	農	高木 伊藤 瀬戸	
	森林フィールド特別実習	森		1	2-3年	後期	実習	森E	7	応		関係教員	集中
	学外研修	森		1	3年	通年	実習	森E	1, 2, 4, 7, 8	応		関係教員	集中
	造林学実験実習	森		2	3年	通年	実習	森C	2, 3, 4, 6, 7, 8	応	農	伊藤 平田	一部集中
植物病理学総論	動		2	4年	前期	講義	森C		応	理・生	竹下(稔)		
植物病理学各論	動		2	4年	後期	講義	森C		応	理・生	竹下(稔)		
土壌肥科学	動		2	4年	前期	講義	森C		応	理・地	佐伯 井戸田		
雑草防除学	動		2	4年	後期	講義	森C		応	農	松尾		

(注意) 科目の担当教員は変更になることがある。

* 学科共通選択科目群の中から3科目(6単位)を履修しなければならない。ただし、6単位を超える分の単位については2科目(4単位)まで卒業に必要な専門科目(選択科目)の単位に含めることができる。

** 専門科目の選択科目から合計45単位 (SPARC未来共創教育プログラムを適用する学生においては43単位)以上修得しなければならない。また、森林環境持続性科学コースのカリキュラム表に記載された科目以外に、農学科の他コースに記載された科目の中から8単位までを卒業要件の専門科目(選択科目)の単位に含めることができる。

農学科 海洋生命科学コース
1. 学部共通科目・学科共通科目

区分	授業科目	開講	単位数		開講時期		授業形態	DP	AL	順次性	教職科目	担当教員	備考	
			必修	選択	学年	時期								
学部共通科目	農学・獣医学入門	共	2		1年	前期	講義	A		入		関係教員		
	農学・獣医学グローバル入門	共	2		1年	前期	講義	A	3	入		関係教員		
	農学・獣医学DX入門	共	2		1年	前期	講義	B		入		関係教員		
	農学・獣医学データサイエンス演習	共	2		3年	前期	実習	B		応		関係教員		
	農学・獣医学の倫理と安全	共	1		3年	前期	講義	A		応		関係教員		
	農学・獣医学専門英語演習	共	2		3年	通年	実習	A		応		関係教員		
学科共通科目	必修科目	食資源学入門	共	2		1年	前期	講義	A	5	入		関係教員	
		農学基礎実験・実習Ⅰ	共	1		1年	前期	実習	A	1, 2, 3, 4, 6, 7, 8	入		関係教員	
		農学基礎実験・実習Ⅱ	共	1		1年	後期	実習	A	1, 3, 6, 8	入		関係教員	
	選択科目	基礎動植物学	動		2	1年	後期	講義	A	5	基	理・生	関係教員	
		アグリイノベーション概論	動		2	1年	後期	講義	A	5	基		関係教員	
		GAP概論	動		2	1年	後期	講義	A	5	基	農	木下	
		動物行動学	動		2	1年	後期	講義	A		基	理・生	坂本	
		基礎環境資源経済学	森		2	1年	後期	講義	A		基		藤掛	
		環境気象学	森		2	1年	後期	講義	A	8	基	理・地	竹下(伸)	*学科共通選択科目から3科目(6単位)修得すること。
		生命化学概論	応		2	1年	後期	講義	A		基	理・生	吉田(十) 山崎(正) 榊原	
		化学概論	応		2	1年	後期	講義	A	5, 8	基	理・化	服部 榊原	
		基礎海洋資源科学	海		2	1年	後期	講義	A	3	基	理・化	林(康)	
		基礎行動・生態学	海		2	1年	後期	講義	A	3	基	理・生	和田 深見	
		九州沖縄農林水産学	共		2	1年	後期	講義	A		基		関係教員 (連携科目)	

農学科 海洋生命科学コース

2. コース専門基盤科目・コース専門必修科目

区分	授業科目	開講	単位数		開講時期		授業形態	DP	AL	順次性	教職科目	担当教員	備考	
			必修	選択	学年	時期								
コース専門基盤科目	必修科目	海洋生物環境学概論	海	2	1年	前期	講義	A	5	基	水	関係教員		
		環境微生物学	海	2	2年	前期	講義	A		基	水	ウルバンチク		
		海洋生物分類学	海	2	2年	前期	講義	海C	5	基	理・生	内田 深見		
	選択科目	浅海生態学	海		2	2年	前期	講義	海D	2, 3, 4, 6, 7, 8	基	理・地	村瀬	一部集中
		生物の多様性と遺伝子科学	海		2	2年	後期	講義	海C		基	理・生	宮西	
コース専門科目	必修科目	水域生物生理学	海	2	1年	後期	講義	海C		基	水	宮西		
		水生生物解剖分類学実験	海	2	2年	前期	実験	海C	6, 8	発	理・実	深見 長野 宮西 和田		
		魚類学	海	2	2年	前期	講義	海C	2, 5, 7	発	理・生	長野 村瀬		
		魚類生理学	海	2	2年	前期	講義	海C	5	発	水	内田		
		養殖学入門	海	2	2年	前期	講義	海D	2, 5, 7	発	理・生	長野		
		水産化学	海	2	2年	前期	講義	海D		発	理・化	田中(竜)		
		水族生理学実験	海	2	2年	後期	実験	海E	2, 3, 6, 8	発	水	河野 宮西		
		水産化学実験	海	2	2年	後期	実験	海E	1, 2, 3, 6, 8	発	理・実	田中(竜) 田岡 林(康)		
		サンゴ礁学	海	2	2年	後期	講義	海C	1, 3	発	理・生	深見		
		水産食品微生物学	海	2	2年	前期	講義	海D	5, 7	発	水	田岡		
		水産食品製造学	海	2	2年	後期	講義	海D	3	発	水	田中(竜)		
		海洋微生物学実験	海	2	3年	前期	実験	海E	2, 3, 6, 8	応	水	引間 ウルバンチク 西木		
		水産食品科学	海	2	1年	前期	講義	海C		基	水	林(雅)		
		水族病原微生物学	海	2	2年	前期	講義	海D		応	理・生	吉田(照) 西木		
	卒業研究	海	8	4年	通年				応		関係教員			

農学科 海洋生命科学コース

3. コース専門選択科目

区分	授業科目	開講	単位数		開講時期		授業形態	DP	AL	順次性	教職科目	担当教員	備考
			必修	選択	学年	時期							
コース専門科目 選択科目	マリンバイオテクノロジー	海		2	2年	前期	講義	海D		発	水	林(雅)	
	水族館学	海		1	2年	通年	講義	海C		発		非常勤講師	
	延岡フィールド臨海実習	海		2	2年	通年	実習	海D	2, 3, 4, 6, 7, 8	発	理・実	内田 深見 村瀬	集中
	水産法規	海		2	2年	後期	演習	海D	7	発		非常勤講師	集中(隔年)
	藻類分類学	海		2	2年	後期	講義	海D		発		非常勤講師	集中(隔年)
	海洋生物探査講座	海		2	2年	後期	実習	海C	3, 4, 8	発		関係教員	集中
	水族生産学体験講座	海		2	3年	後期	講義	海E	2, 4, 7, 8	応	水	関係教員	集中
	水産飼科学	海		2	3年	前期	講義	海D	1, 5, 7	応	水	田岡	
	魚病学	海		2	3年	前期	講義	海D		応	水	西木	
	水産増養殖学	海		2	3年	後期	講義	海D	2, 5, 7	応	水	内田 長野 田岡	
	海洋分子科学	海		2	3年	後期	講義	海D	3	応	理・化	林(康)	
	微生物との共生	海		2	3年	後期	講義	A	5, 7	応	理・生	ウルバンチク	
	魚類生態環境学	海		2	3年	後期	講義	海D	7	応	水	村瀬	集中
	水産科教育法	海		4	3年	通年	講義	海D		応	水	非常勤講師	
	食品衛生学	海動		2	3年	前期	講義	海D	5	応		引間 河原 井口	
	公衆衛生学	海		2	3年	前期	講義	A	2, 5	応		河野	
	食品保蔵化学	動		2	3年	後期	講義	海D	5	応		河原	
	組織学	獣		2	2年	後期	講義	海D		発		保田 脇谷	
	動物生体防御学	海		2	2年	後期	講義	海D	5	発	水	引間	
	遺伝子工学	海		2	2年	後期	講義	海C	2, 5	応	理・生	河野	
分析化学	動		2	3年	後期	講義	海D		応	理・化	佐伯		

(注意) 科目の担当教員は変更になることがある。

* 学科共通選択科目群の中から3科目(6単位)を履修しなければならない。ただし、6単位を超える分の単位については2科目(4単位)まで卒業に必要な専門科目(選択科目)の単位に含めることができる。

** 専門基盤科目および専門科目の選択科目から合計25単位(SPARC未来共創教育プログラムを適用する学生においては23単位)以上修得しなければならない。また、海洋生命科学コースのカリキュラム表に記載された科目以外に、農学科の他コースに記載された科目の中から8単位までを卒業要件の専門科目(選択科目)の単位に含めることができる。

農学科 応用生命化学コース

1. 学部共通科目・学科共通科目

区分	授業科目	開講	単位数		開講時期		授業形態	DP	AL	順次性	教職科目	担当教員	備考	
			必修	選択	学年	時期								
学部共通科目	農学・獣医学入門	共	2		1年	前期	講義	A		入		関係教員		
	農学・獣医学グローバル入門	共	2		1年	前期	講義	A	3	入		関係教員		
	農学・獣医学DX入門	共	2		1年	前期	講義	B		入		関係教員		
	農学・獣医学データサイエンス演習	共	2		3年	前期	実習	B		応		関係教員		
	農学・獣医学の倫理と安全	共	1		3年	前期	講義	A		応		関係教員		
	農学・獣医学専門英語演習	共	2		3年	通年	実習	A		応		関係教員		
学科共通科目	必修科目	食資源学入門	共	2		1年	前期	講義	A	5	入		関係教員	
		農学基礎実験・実習Ⅰ	共	1		1年	前期	実習	A	2, 3, 4, 5, 6, 7, 8	入		関係教員	
		農学基礎実験・実習Ⅱ	共	1		1年	後期	実習	A	2, 3, 4, 5, 6, 7, 8	入		関係教員	
	選択科目	基礎動植物学	動		2	1年	後期	講義	A	5	基	理・生	関係教員	*学科共通 選択科目 から3科目 (6単位) 修得する こと。
		アグリイノベーション概論	動		2	1年	後期	講義	A	5	基		関係教員	
		GAP概論	動		2	1年	後期	講義	A	5	基	農	木下	
		動物行動学	動		2	1年	後期	講義	A		基	理・生	坂本	
		基礎環境資源経済学	森		2	1年	後期	講義	A		基		藤掛	
		環境気象学	森		2	1年	後期	講義	A	8	基	理・地	竹下(伸)	
		生命化学概論	応		2	1年	後期	講義	A		基	理・生	吉田(ナ) 山崎(正) 榊原	
		化学概論	応		2	1年	後期	講義	A	5, 8	基	理・化	服部 榊原	
		基礎海洋資源科学	海		2	1年	後期	講義	A	3	基	理・化	林(康)	
		基礎行動・生態学	海		2	1年	後期	講義	A	3	基	理・生	和田 深見	
		九州沖縄農林水産学	共		2	1年	後期	講義	A		基		関係教員 (連携科目)	

農学科 応用生命化学コース

2. コース専門基盤科目・コース専門必修科目

区分	授業科目	開講	単位数		開講時期		授業形態	DP	AL	順次性	教職科目	担当教員	備考	
			必修	選択	学年	時期								
コース専門基盤科目	有機化学	応	2		1年	後期	講義	応C	5	基	理・化	服部		
	化学各論	応	2		2年	前期	講義	応C		発	理・化	井上(謙) 稲葉(丈)		
	生物分子化学	応	2		2年	前期	講義	応C		発	理・化	榊原		
	分析化学	動	2		1年	後期	講義	応C		基	理・化	佐伯		
	酵素化学	応	2		2年	前期	講義	応C		発	理・化	黒木		
	生物化学	応	2		2年	後期	講義	応C	5	発		江藤 榊原 黒木		
	微生物学	応	2		2年	前期	講義	応C		発	理・生	吉田(ナ)		
	食品栄養化学	応	2		2年	後期	講義	応C		発	理・生	山崎(正) 西川		
	食品製造学	応	2		2年	後期	講義	応C		発	農	山崎(正) 小川		
	微生物学実験	応	1		2年	前期	実験	応E	8	発	理・実	吉田(ナ) 井上(謙) 清		
	分析化学実験	応	1		2年	前期	実験	応C	6, 7, 8	基	理・実	山崎(正) 横山 稲葉(丈)		
	有機化学実験	応	1		2年	後期	実験	応C	8	基	理・実	榊原 服部 小川		
	生物化学実験	応	1		2年	後期	実験	応C	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8	発		江藤 黒木 西川		
コース専門科目	必修科目	細胞機能分子化学	応	2		3年	前期	講義	応C	5, 7	応		江藤 服部 黒木	
		生体分子機能化学	応	2		3年	前期	講義	応C		応	理・化	榊原 服部 黒木	
		応用微生物学	応	2		2年	後期	講義	応D		発	理・生	井上(謙)	
		食品機能化学	応	2		3年	前期	講義	応D		応	理・生	山崎(正)	
		植物生理学	応	2		2年	前期	講義	応C		発	理・生	稲葉(丈)	
		微生物機能開発学	応	2		3年	後期	講義	応D		応		吉田(ナ) 井上(謙) 塩田 清	
		農産食品製造学	応	2		3年	前期	講義	応D		応	農	小川 横山	
		入門セミナー	応	2		3年	前期	講義	応C	5, 7	応		関係教員	集中
		卒業研究	応	8		4年	通年				応		関係教員	

農学科 応用生命化学コース

3. コース専門選択実験・実習科目、コース専門選択科目

区分	授業科目	開講	単位数		開講時期		授業形態	DP	AL	順次性	教職科目	担当教員	備考
			必修	選択	学年	時期							
コース専門科目	選択実験・実習科目 生物機能科学実験	応		2	3年	通年	実験	応D	1, 2, 7, 8	応		関係教員	**選択実験・実習科目から2単位修得すること
	食品機能化学実験	応		2	3年	通年	実験	応D	1, 2, 7, 8	応		関係教員	
	実用英語	応		1	2年	通年	演習	応D	5	応		関係教員	
	学外研修	応		1	3年	通年	演習	応D	7, 8	応		関係教員	
	植物栄養生化学	動		2	3年	後期	講義	応D		応	農	山本(昭)	
	植物育種学	動		2	2年	後期	講義	応D		発	理・生	國武田中(秀) 権藤	
	土壌肥科学	動		2	2年	前期	講義	応D		発	理・地	佐伯井戸田	
	植物遺伝資源学	動		2	3年	前期	講義	応E		応	農	平野田中(秀)	
	遺伝子工学	海		2	2年	後期	講義	応C	2, 5	発	理・生	河野	
	食品衛生学	動海		2	3年	前期	講義	応D	5	応		引間河原井口	
	公衆衛生学	海		2	3年	前期	講義	応D	2, 5	応		河野	
	食品保蔵化学	動		2	3年	後期	講義	応D	5	応		河原	
	畜産食品科学	動		2	3年	後期	講義	応D	5	応	農	河原	
	水産食品製造学	海		2	3年	後期	講義	応E		応	(水)	田中(竜)	
	畜産食品製造学	動		2	4年	前期	講義	応E		応	農	仲西	
動物生体防御学	海		2	3年	後期	講義	応D	5	応	(水)	引間		

(注意) 科目の担当教員は変更になることがある。

* 学科共通選択科目群の中から3科目(6単位)を履修しなければならない。ただし、6単位を超える分の単位については2科目(4単位)まで卒業に必要な専門科目(選択科目)の単位に含めることができる。

** 選択実験・実習科目から1科目(2単位)修得しなければならない。

*** 専門科目の選択科目から合計19単位 (SPARC未来共創教育プログラムを適用する学生においては17単位)以上修得しなければならない。また、応用生命化学コースのカリキュラム表に記載された科目以外に、農学科の他コースに記載された科目の中から8単位までを卒業要件の専門科目(選択科目)の単位に含めることができる。

獣医学科

1. 学部共通科目・学科専門基盤科目

区分	授業科目	開講	単位数		開講時期		授業形態	D P	A L	担当教員	備考
			必修	選択	学年	時期					
学部共通科目	農学・獣医学入門	共		2	1年	前期	講義	A		関係教員	(※)注
	農学・獣医学グローバル入門	共		2	1年	前期	講義	A		関係教員	
	農学・獣医学DX入門	共	2		1年	前期	講義	B		関係教員	
	農学・獣医学データサイエンス演習	共	2		3年	前期	演習	B		関係教員	
	農学・獣医学の倫理と安全	共	1		3年	前期	講義	獣D		関係教員	
	農学・獣医学専門英語演習	共	2		4年	通年	演習	獣G	1, 2, 5, 6, 7, 8	関係教員	*
学科専門基盤科目	獣医学概論・獣医学史	獣	2		1年	後期	講義	A		関係教員	
	動物福祉学	動	2		1年	後期	講義	獣C		関係教員	
	獣医畜産法規	獣	2		2年	前期	講義	A		関係教員	

(※注：学部共通科目の注意事項)

獣医学科でSPARC未来共創教育プログラムを適用する場合、上記7単位の必修科目に加えて「農学・獣医学グローバル入門」と「宮崎の地域活性化演習(2単位)」が必修科目となる。同プログラムを適用しない獣医学科生は、「農学・獣医学入門」もしくは「農学・獣医学グローバル入門」のいずれか片方を選択科目として履修する。

獣医学科

2. 学科専門科目(1)

区分	授業科目	開講	単位数		開講時期		授業形態	D P	A L	担当教員	備考
			必修	選択	学年	時期					
基礎獣医学	解剖学Ⅰ	獣	2		1年	前期	講義	獣D		保田 脇谷	
	解剖学Ⅱ	獣	2		1年	前期	講義	獣D		保田 脇谷	
	解剖学実習	獣	2		2年	前期	実習	獣D		保田 脇谷	
	組織学	獣	2		1年	後期	講義	獣D		保田 脇谷	
	組織学実習	獣	1		2年	後期	実習	獣D		保田 脇谷	
	発生学	獣	2		1年	後期	講義	獣D	5	新井	
	動物生理学Ⅰ	獣	2		1年	前期	講義	獣D		井田 丸山	
	動物生理学Ⅱ	獣	2		1年	後期	講義	獣D		井田 丸山	
	動物生理学Ⅲ	獣	2		1年	後期	講義	獣D		井田 丸山	
	生理学実験実習	獣	1		3年	前期	実験 実習	獣D		井田 丸山	
	動物遺伝育種学	獣	2		1年	前期	講義	獣D		新村	
	生理化学	獣	2		2年	後期	講義	獣D	5, 7	新井	
	生理化学実験実習	獣	1		3年	前期	実験 実習	獣D	3, 5, 7, 8	新井	
	薬理学Ⅰ	獣	2		2年	後期	講義	獣D	2, 5	池田 園田	
	薬理学Ⅱ	獣	2		3年	前期	講義	獣D	2, 5	池田 園田	
	薬理学実験	獣	1		3年	前期	実験	獣D	2, 3, 5, 6, 7, 8	池田 園田	
	獣医動物行動学	獣	1		3年	後期	講義	獣D		井田 丸山	
	実験動物学	獣	2		2年	前期	講義	獣D		関係教員	
	獣医実験動物学実習	獣	1		2年	後期	実習	獣D		関係教員	
	放射線生物学	獣	2		3年	前期	講義	獣D		佐藤(礼) 佐藤(裕)	

獣医学科

3. 学科専門科目(2)

区分	授業科目	開講	単位数		開講時期		授業形態	D P	A L	担当教員	備考
			必修	選択	学年	時期					
病態獣医学	動物病理学Ⅰ	獣	2		2年	後期	講義	獣D	2, 5	平井	
	動物病理学Ⅱ	獣	2		3年	前期	講義	獣D	2, 5	平井	
	動物病理学Ⅲ	獣	2		3年	後期	講義	獣D	2, 5	平井	
	動物病理学実習Ⅰ	獣	1		3年	後期	実習	獣D	1, 2, 5, 6, 7, 8	平井 福家	
	動物病理学実習Ⅱ	獣	1		4年	前期	実習	獣D	1, 2, 5, 6, 7, 8	平井 福家	
	免疫学	獣	2		2年	前期	講義	獣D		関係教員	
	微生物学総論	獣	2		2年	前期	講義	獣D		岡林 齊藤	
	微生物学各論Ⅰ	獣	2		2年	後期	講義	獣D		岡林 齊藤	
	微生物学各論Ⅱ	獣	2		3年	前期	講義	獣D		岡林 齊藤	
	微生物学実習Ⅰ	獣	1		3年	後期	実習	獣D		岡林 齊藤	
	微生物学実習Ⅱ	獣	1		3年	後期	実習	獣D		齊藤 目堅	
	家禽疾病学	獣	2		3年	後期	講義	獣D		上村	
	魚類学	海	2		3年	前期	講義	獣D		長野 村瀬	
	魚病学	海	2		4年	前期	講義	獣D		西木	
	動物感染症学	獣	2		4年	前期	講義	獣D	5	関口	
	寄生虫学	獣	2		2年	前期	講義	獣D		吉田(彩) 入江	
	人獣共通感染症学	獣	2		4年	通年	講義	獣D		関係教員	
	寄生虫学実習	獣	1		2年	後期	実習	獣D		吉田(彩) 入江	

獣医学科

4. 学科専門科目(3)

区分	授業科目	開講	単位数		開講時期		授業形態	D P	A L	担当教員	備考
			必修	選択	学年	時期					
応用獣医学	毒性学	獣	2		3年	後期	講義	獣D	2, 5	池田 園田	
	毒性学実験	獣	1		3年	後期	実験	獣D	2, 3, 5, 6, 7, 8	池田 園田	
	動物衛生学	獣	2		3年	前期	講義	獣D		上村	
	動物衛生学実習	獣	1		4年	前期	実習	獣D		上村 新美 小林	
	獣医公衆衛生学Ⅰ	獣	2		3年	後期	講義	獣D		山田 山崎(朗)	
	獣医公衆衛生学Ⅱ	獣	2		4年	前期	講義	獣D		武田 山田 山崎(朗)	
	獣医疫学	獣	2		4年	後期	講義	獣D	5	関口	
	公衆衛生学・食品衛生学実習	獣	1		4年	前期	実習	獣D		山田 関口 山崎(朗)	
	野生動物医学	獣	2		2年	通年	講義	獣D		非常勤講師 関係教員	集中

獣医学科

5. 学科専門科目(4)

区分	授業科目	開講	単位数		開講時期		授業形態	D P	A L	担当教員	備考
			必修	選択	学年	時期					
臨床獣医学	画像診断学	獣	2		3年	後期	講義	獣D		佐藤(裕)	
	獣医臨床学総論Ⅰ	獣	2		3年	後期	講義	獣D		関係教員	
	獣医臨床学総論Ⅱ	獣	2		4年	前期	講義	獣D		永延 金子	
	獣医臨床学各論Ⅰ	獣	2		4年	前期	講義	獣D		永延 大菅	
	獣医臨床学各論Ⅱ	獣	2		4年	前期	講義	獣D		永延 大菅	
	獣医臨床学各論Ⅲ	獣	2		4年	後期	講義	獣D		永延 大菅 佐藤(裕)	
	獣医診断治療学Ⅰ	獣	2		5年	前期	講義	獣D		井上(賀) 金子	
	獣医診断治療学Ⅱ	獣	1		5年	前期	講義	獣D		井上(賀)	
	産業動物臨床学	獣	2		4年	後期	講義	獣D	2	佐藤(礼)	
	臨床繁殖学Ⅰ	獣	2		4年	後期	講義	獣D		大澤 北原	
	臨床繁殖学Ⅱ	獣	2		4年	後期	講義	獣D		大澤 北原	
	馬臨床学	獣	1		4年	前期	講義	獣D		非常勤講師 関係教員	集中
	小動物内科学実習	獣	1		4年	後期	実習	獣D		佐藤(裕) 大菅	
	獣医外科学実習Ⅰ	獣	1		4年	後期	実習	獣D		永延 井上(賀)	
	獣医外科学実習Ⅱ	獣	1		5年	前期	実習	獣D		永延 井上(賀)	
	産業動物診断治療学実習	獣	1		5年	前期	実習	獣D	4, 7, 8	佐藤(礼)	
	獣医画像診断学実習	獣	1		4年	前期	実習	獣E	2, 3, 8	佐藤(裕) 金子	
	臨床繁殖学実習	獣	1		4年	後期	実習	獣D		大澤 北原	
	伴侶動物参加型臨床実習Ⅰ	獣	2		5年	後期	実習	獣D		関係教員	
	伴侶動物参加型臨床実習Ⅱ	獣	2		6年	前期	実習	獣D		関係教員	
産業動物参加型臨床実習	獣	2		5年	後期	実習	獣D		関係教員		

獣医学科

6. 学科専門科目(5)

区分	授業科目	開講	単位数		開講時期		授業形態	D P	A L	担当教員	備考
			必修	選択	学年	時期					
その他	獣医解剖学専修実験	獣	2		4年	通年	実験	獣D		保田 脇谷	**
	獣医生理学専修実験	獣	2		4年	通年	実験	獣D		井田 丸山	**
	獣医機能生化学 専修実験	獣	2		4年	通年	実験	獣D	1, 2, 5, 7, 8	新井	**
	獣医薬理学専修実験	獣	2		4年	通年	実験	獣D	1, 2, 5, 6, 7, 8	池田 園田	**
	獣医病理学専修実験	獣	2		4年	通年	実験	獣D	1, 2, 5, 6, 7, 8	平井 福家	**
	産業動物衛生学 専修実験	獣	2		4年	通年	実験	獣D		上村	**
	獣医微生物学 専修実験	獣	2		4年	通年	実験	獣D		岡林 齊藤	**
	獣医公衆衛生学 専修実験	獣	2		4年	通年	実験	獣D	2, 7, 8	山田 山崎(朗)	**
	産業動物伝染病防疫学 専修実験	獣	2		4年	通年	実験	獣D	8	関口	**
	獣医遺伝情報学 専修実験	獣	2		4年	通年	実験	獣D		新村	**
	獣医寄生虫病学 専修実験	獣	2		4年	通年	実験	獣D		吉田(彩) 入江	**
	獣医内科学専修実験	獣	2		4年	通年	実験	獣D		大菅	**
	産業動物内科学 専修実験	獣	2		4年	通年	実験	獣D	1, 2, 7	佐藤(礼)	**
	獣医外科学専修実験	獣	2		4年	通年	実験	獣D		井上(賀)	**
	産業動物臨床繁殖学 専修実験	獣	2		4年	通年	実験	獣D		大澤 北原	**
	獣医臨床放射線学 専修実験	獣	2		4年	通年	実験	獣E	1, 2, 3, 7, 8	佐藤(裕)	**
	動物病院専修実験	獣	2		4年	通年	実験	獣D		永延 金子	**
	畜産学実習	獣	1		3年	前期	実習	獣D		小林 石垣 上村	集中
獣医インターンシップ	獣	1		5-6年	通年	実習	獣F	4	関係教員		
卒業研究	獣	8		5-6年	通年				関係教員	*	
海外獣医学研修	獣		1	全学年	通年	実習	獣G	4, 7	関係教員	***	

獣医学科

7. アドバンス畜産・獣医学発展科目、アドバンス科目

区分	授業科目	開講	単位数		開講時期		授業形態	D P	A L	担当教員	備考
			必修	選択	学年	時期					
畜産・獣医学 発展科目	家畜栄養学	動		2	5年	後期	講義	獣D		高橋 西村	アドバンス畜産・獣医学発展科目は6単位中2単位以上を選択
	動物環境管理学	動		2	6年	前期	講義	獣D		徳永	
	飼料作物学	動		2	6年	前期	講義	獣D		井戸田	
アドバンス科目	アドバンス伴侶動物医療学Ⅰ	獣		1	2年	前期	講義	獣D		永延 佐藤(裕)	アドバンス科目は11単位中4単位以上を選択
	アドバンス伴侶動物医療学Ⅱ	獣		1	5年	後期	講義	獣D		金子 大菅 井上(賀)	
	アドバンス理論感染症学	獣		1	5年	前期	講義	獣D		岡林 山田 吉田(彩) 山崎(朗)	
	アドバンス伴侶動物高齢獣医学	獣		1	5年	前期	講義	獣D		佐藤(裕) 金子 大菅	
	アドバンス実践感染症学	獣		1	6年	前期	講義	獣D	8	関口	
	アドバンス産業動物先端獣医療学	獣		1	6年	前期	講義	獣D		大澤 佐藤(礼) 北原	
	アドバンス獣医地域行政学	獣		1	2年	後期	講義	獣D		山田	
	アドバンス産業動物臨床学	獣		1	5年	後期	講義	獣D	1, 2, 7	佐藤(礼) 大澤 北原	
	アドバンスグローバル獣医学	獣		1	5年	後期	講義	獣D		関係教員	
	アドバンス野生動物臨床獣医学	獣		1	5年	後期	講義	獣D		上村 保田 永延	
	アドバンス動物生命科学	獣		1	5年	後期	講義	獣D	1, 2, 3, 5, 6, 7, 8	関係教員	

(注意) 科目の担当教員は変更になる場合がある。

- ・備考欄に *印を付した専門英語演習及び卒業研究は、所属の研究室又は動物病院において修得するものとする。
- ・備考欄に **印を付した専修実験は、いずれか1科目（2単位）を所属の研究室又は動物病院において修得するものとする。
- ・備考欄に ***印を付した科目は卒業要件に含めない。

授業科目担当教員（関係教員）一覧表

※（ ）は協力教員として担当

学部共通科目

授業科目	担 当 教 員
農学・獣医学入門	國武・徳永・長野・服部・山田・光田・脇谷
農学・獣医学グローバル入門	山本(直)・藤掛・宮西・中園・井口・佐伯・河原
農学・獣医学DX入門	榑原・木下・狩野・中園・光田・篠原(慶)・引間・林(雅)・田中(竜)・安在・関口・槐島
農学・獣医学データサイエンス演習	櫻井・霧村・西木・田中(秀)・関口
農学・獣医学の倫理と安全	櫻井・山本(昭)
農学・獣医学専門英語演習	学部教員

農学科共通科目

授業科目	担 当 教 員
食資源学入門	田中(竜)・竹下(伸)・圖師・仲西・吉田(ナ)・山崎(正)・小川・西川(山崎(有))
農学基礎実験・実習Ⅰ	コース教員
農学基礎実験・実習Ⅱ	コース教員
基礎動植物学	安達・石田・稲葉(靖)・高橋・仲西・増田・松尾・平野・本勝・湯淺
アグリイノベーション概論	國武・霧村・佐伯・井戸田・飛佐・山本(直)・木下・石田・井上(慶)・河原・井口・権藤・圖師・日吉・田中(秀)・中村・西村
九州沖縄農林水産学	藤掛・徳永・中村

農学科 動植物資源生命科学コース

授業科目	担 当 教 員
農場実習Ⅰ	湯浅・竹下(稔)・圖師・國武・佐伯・宇田津・槐島・木下・本勝・増田・稲葉(靖)・安達・平野・山本(昭)・中村・松尾・日吉・霧村
動植物資源生命科学専門実習・実習Ⅰ・Ⅱ	續木・飛佐・井戸田・田中(秀)・坂本・井上(慶)・河原・石田・井口・高橋・徳永・仲西・小林・石垣・新美・安在・山本(直)・湯浅・竹下(稔)・圖師・國武・佐伯・宇田津・狩野・木下・槐島・稲葉(靖)・本勝・増田・安達・山本(昭)・平野・中村・松尾・霧村・日吉・右京・西村・権藤・越本・篠原(明)・名倉
植物生産科学実験Ⅰ	竹下(稔)・湯浅・稲葉(靖)・本勝・安達
植物生産科学実験Ⅱ	竹下(稔)・湯浅・宇田津・稲葉(靖)・本勝・増田・安達・霧村
農場実習Ⅱ	湯浅・竹下(稔)・圖師・國武・佐伯・宇田津・槐島・木下・本勝・増田・稲葉(靖)・安達・平野・山本(昭)・中村・松尾・日吉・霧村
フィールド実践実習(農場)	竹下(稔)・圖師・國武・佐伯・宇田津・山本(直)・槐島・木下・本勝・増田・安達・狩野・中村・松尾・日吉・霧村
動植物生産データエンジニアリング	木下・日吉・槐島・霧村・圖師
学外体験実習	山本(直)・宇田津・本勝・木下・圖師・湯浅・竹下(稔)・稲葉(靖)・増田・槐島・狩野・安達・日吉・霧村・中村・松尾・井戸田・田中(秀)・石垣・徳永・石田・續木・新美・坂本・安在・井上(慶)・飛佐・権藤・小林・井口・高橋・西村
スマート農業インターンシップ	山本(直)・宇田津・本勝・木下・圖師・湯浅・竹下(稔)・稲葉(靖)・増田・槐島・狩野・安達・日吉・霧村・中村・松尾・井戸田・田中(秀)・石垣・徳永・石田・續木・新美・坂本・安在・井上(慶)・飛佐・権藤・小林・井口・高橋・西村
動物福祉学	坂本・篠原(明)・徳永・池田・岡林・佐藤(礼)・山田
卒業研究	指導教員

農学科 森林環境持続性科学コース

授業科目	担 当 教 員
森林環境持続性科学概論	伊藤・藤掛・雉子谷・光田・竹下(伸)・中園・櫻井・篠原(慶)・平田・高木徳本・小柳・瀬戸
環境計測学	高木・雉子谷・光田・篠原(慶)・伊藤・竹下(伸)・平田・徳本
森林フィールド特別実習	伊藤・藤掛・雉子谷・光田・竹下(伸)・中園・櫻井・篠原(慶)・平田・高木徳本・小柳・瀬戸
学外研修	伊藤・藤掛・雉子谷・光田・竹下(伸)・中園・櫻井・篠原(慶)・平田・高木徳本・小柳・瀬戸
卒業研究	指導教員

農学科 海洋生命科学コース

授業科目	担当教員
海洋生物環境学概論	吉田(照)・林(雅)・内田・田中(竜)・引間・長野・深見・田岡・河野・林(康) ウルバンチック・村瀬・宮西・西木・和田
海洋生物探査講座	吉田(照)・林(雅)・内田・田中(竜)・引間・長野・深見・田岡・河野・林(康) ウルバンチック・村瀬・宮西・西木・和田
水族生産学体験講座	吉田(照)・長野・田岡・宮西・西木・内田
卒業研究	指導教員

農学科 応用生命化学コース

授業科目	担当教員
入門セミナー	榑原・吉田(ナ)・山崎(正)・服部・江藤・稲葉(丈)・井上(謙)・黒木・小川・ 西川・横山・清・(塩田)
生物機能科学実験	榑原・吉田(ナ)・服部・江藤・稲葉(丈)・井上(謙)・黒木・清・(塩田)
食品機能化学実験	山崎(正)・小川・西川・横山
実用英語	榑原・吉田(ナ)・山崎(正)・服部・江藤・稲葉(丈)・井上(謙)・黒木・小川・ 西川・横山・清
学外研修	榑原・吉田(ナ)・山崎(正)・服部・江藤・稲葉(丈)・井上(謙)・黒木・小川・ 西川・横山・清
卒業研究	指導教員

獣医学科

授業科目	担 当 教 員
獣医学概論・獣医学史	1年次クラス担任
獣医畜産法規	上村・園田・井上(賀)・北原・山田・大菅・山崎(朗)
実験動物学	越本・篠原(明)・井田・丸山・吉田(貢)
獣医実験動物学実習	井田・丸山・越本・篠原(明)・吉田(貢)
免疫学	保田・岡林・齊藤・入江・山崎(朗)
人獣共通感染症学	山田・吉田(彩)・入江・岡林・関口・上村・目堅・山崎(朗)
野生動物医学	永延・保田・吉田(彩)・平井
獣医臨床学総論 I	永延・佐藤(礼)・金子・井上(賀)・新井
馬臨床学	永延・大澤・佐藤(裕)・佐藤(礼)・北原
伴侶動物参加型臨床実習 I・II	大澤・永延・佐藤(礼)・佐藤(裕)・北原・井上(賀) 大菅・金子
産業動物参加型臨床実習	大澤・永延・佐藤(礼)・佐藤(裕)・小林・北原・井上(賀) 上村・大菅
海外獣医学研修	各学年クラス担任
アドバンスグローバル獣医学	岡林・山田・吉田(彩)・入江・大澤・佐藤(礼)・平井
アドバンス動物生命科学	池田・新村・井田・園田・丸山・脇谷・新井・福家
獣医インターンシップ	6年次クラス担任
卒業研究	指導教員

学芸員関係

授業科目	担 当 教 員
博物館実習 I	宇田津・安達・雉子谷・高木・平田・河原・ 深見・村瀬・井戸田・坂本・保田・脇谷
博物館実習 II	宇田津

SPARC 未来共創教育プログラムについて

1) SPARC は Supereminent Program for Activating Regional Collaboration を略したもので、文部科学省からの助成を受けている事業です。

農学部では、一次産業、フードビジネス、デジタルトランスフォーメーション (DX) など多様な分野で、宮崎の地域活性化を支える「未来共創人材」を育成することを目標とした「SPARC 未来共創教育プログラム」を令和7年度入学生から実施します。

SPARC 未来共創教育プログラムを修了した学生は、「SPARC 未来共創教育プログラム修了証 (仮称)」が授与され、公務員講座の授業料一部免除や県内企業などの採用試験におけるインセンティブ (例：一次試験免除など) を与えられます。SPARC 事業の詳細については、関連のホームページ (URL: <https://www.sparc-miyazaki.com>) をご確認ください。



2) SPARC 未来共創教育プログラムは図1に示すカリキュラムで構成されています。プログラムの履修を決めた学生は、表1および2に指定されている科目を履修し、単位を修得する必要があります。

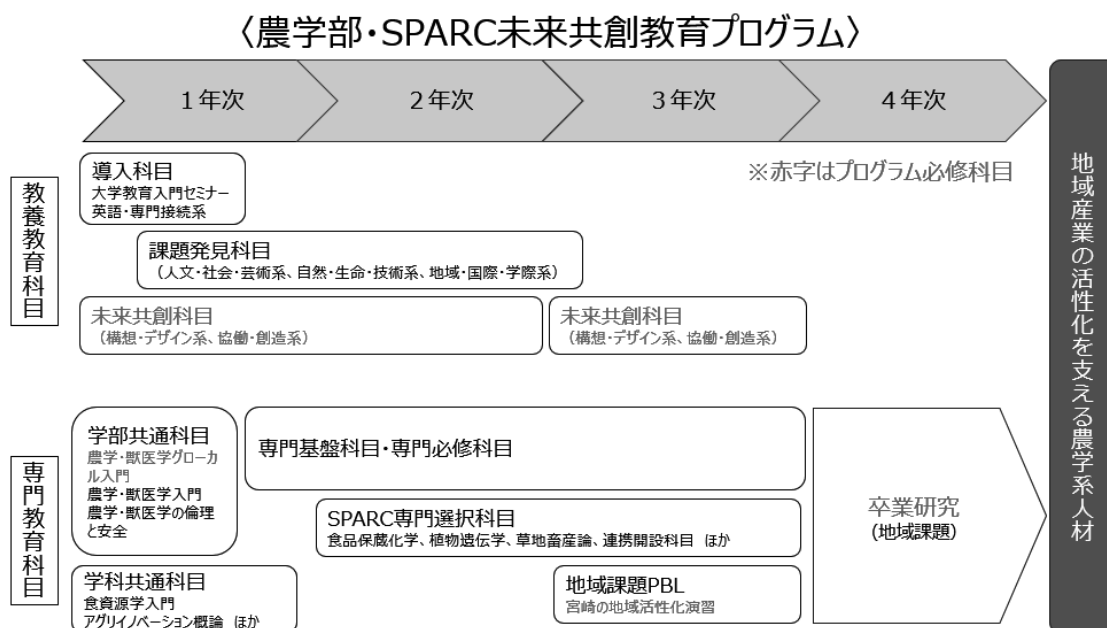


図1 SPARC 未来共創教育プログラムの科目履修の流れ

表1 履修科目表（教養教育科目）

区分	科目名	配当	単位数	備考
未来共創科目 (構想・デザイン系)	地域キャリアデザインI (キャリア)	1前	2	必修
	地域キャリアデザインI (地域)	1後	2	選択必修
	地域キャリアデザインI (プロジェクト設計)	1後		
	地域キャリアデザインI (国際)	1前 (集中)		
	地域キャリアデザインI (総合知)	1後		
	地域キャリアデザインII	3前	2	必修
未来共創科目 (協働・創造系)	SPARC プロジェクト実践演習I (実践型)	2前	2	選択必修
	SPARC プロジェクト実践演習I (探索型)			
	SPARC プロジェクト実践演習II (起業型)	3後	2	選択必修 集中開講
	SPARC プロジェクト実践演習II (事業変革型)			
	SPARC プロジェクト実践演習II (共創型)			

表2 履修科目表（専門科目）

区分	科目名	配当	単位数*	備考
学部共通科目	農学・獣医学グローバル入門	1前	2	必修
	宮崎の地域活性化演習	3通	2	必修
専門科目	植物育種学	2～3年次に 修得 (獣医学科生 は2～5年次 に修得)	2	選択 選択・準備中
	植物病理学総論			
	草地畜産論			
	食品保蔵化学			
	連携開設科目			
	卒業研究	4通(農学科) 5-6通(獣医学科)	8	必修

※合計14単位以上を修得する。

3) 農学部のすべての学生が SPARC 未来共創教育プログラムを履修できます。とくに1年後期以降に教養教育において修得する科目が指定されるので、1年後期の科目登録が始まるまでにプログラム履修の意向調査を行います。

8. 教員免許状及びその他の資格取得について

(1) 教育職員免許状（高等学校教諭一種免許状）の取得について

教員免許状取得希望の学生へ

農学部で教員免許を取得するためには、卒業所要単位に加えて免許に関する科目の履修が必要となり、更に教育実習（基本・応用）も義務付けられています。

教育実習は実際に中学校・高校の教育現場で授業を行い、教師としての学びを得る機会ですが、学校側は教育実習生も重大な責任を担う教師とみなします。そのため、卒業後に教員として就職する学生を教育実習生として受け入れたいと考えています。

また、教育実習期間は他の就職活動時期と重なりやすく、就職の試験日とも重なる場合がありますが、そのような場合でも教育実習を優先することが原則になります。

さらに、教員免許取得のためには多数のカリキュラム外の教職科目を履修する必要があり、時間割の都合上、他の資格関係の科目と同時に履修できない可能性があります。特に学芸員資格との同時履修は難しい可能性が高いです。

教員免許状取得の方法について

1) 農学部農学科で取得できる免許状の種類及び教科

種類	免許教科	免許取得が可能な主なコース
高等学校 教諭一種 免許状	農業	動植物資源生命科学コース、森林環境持続性科学コース
	水産	海洋生命科学コース
	理科	動植物資源生命科学コース、森林環境持続性科学コース、 海洋生命科学コース、応用生命化学コース

- ※ 上記以外のコースにおいても必要な単位を修得すれば教育職員免許状を申請できるが、カリキュラム上は困難であるため、予めクラス担任又は教務・学生支援係に相談すること。
 ※ 必要な単位を修得することで、複数の教科の免許状を取得することも可能である。

2) 教員免許状取得までのスケジュール（※年度毎に時期が変動することがある）

教員免許状の取得には、次ページ以降で説明する所定科目の単位を1年次より修得する必要がある。併せて2年次12～2月頃に、教育職員免許状取得希望調書を農学部教務・学生支援係に提出すること。主な教職科目は3年次より履修する。（教育実習は4年次に実施）

免許状の授与を宮崎県教育委員会より受けたい場合は、大学を通じて一括申請できる。4年次後期に所定の手順で教育職員免許状授与願を農学部教務・学生支援係に提出すること。

学年	時期	行事・手続き内容	注意事項
1～2	4月～5月	教員免許説明会	受講を要する科目を配当年次に修得できるように、履修計画を立てる
2	12月 12月～2月	教職科目単位修得の説明会 教育職員免許状取得希望調書の受付	ポータル等で連絡（2月中旬頃まで）（注）
3	4月～5月 6月～8月 9月 2月～3月	教育実習校選定の説明会 実習校との交渉（内諾を得る） 麻疹免疫の証明を提出 教員採用試験出願期間	調書提出者が対象 各自が実習校と交渉 各自が願書等取り寄せ
4	4月 " " 5月～9月 7月 " 11月 2月前半 3月	教育実習事前及び事後指導（事前指導） 教育実習説明会 基本実習（附属中学校） 応用実習（各実習高校） 教育実習事前及び事後指導（事後指導） 教育実習反省会（7月or10月） 教育職員免許状授与願の事前提出 教育職員免許状授与願の本提出 卒業式・教員免許状交付	日程は掲示 3日間 2週間程度 日程は掲示する 教務・学生支援係より様式配付 宮崎県収入証紙（県機関で学生が購入）を貼付

- （注）教育職員免許状取得希望調書は、2年次の12月頃に教務・学生支援係で様式を配布する。調書の提出がないと免許取得が困難となるため、必ず提出すること。
 なお、調書提出後に免許取得の意志がなくなった場合は、教務・学生支援係に申し出ること。

3) 免許状を取得するための単位修得方法

教員免許状を取得するためには、下記の3種の科目の単位を全て修得する必要がある。

●教育の基礎的理解に関する科目等（合計24単位：全ての免許教科で共通）

表1「教育の基礎的理解に関する科目等」に示された科目（合計24単位）を全て履修して、単位を修得すること。当科目は卒業要件の単位に含むことはできない。

（※施行規則に定める科目区分は23単位となるが、宮崎大学は単位数の関係で24単位としている）

●文部科学省令で定める科目（合計8単位：全ての免許教科で共通）

表2「文部科学省令で定める科目」に示された科目（合計8単位）を全て履修して、単位を修得すること。なお「英語Ac」「情報・データリテラシー」は教養教育科目の必修科目であるが、「日本国憲法」「生涯スポーツ実践（2単位分）」は教員免許取得希望学生のみが受講可能な教職科目（卒業要件の単位に含まれない）となる。

●教科及び教科の指導法に関する科目（一教科につき最低36単位：免許教科毎に別々に修得）

表3・4・5「教科及び教科の指導法に関する科目」に示された科目から選択して、免許教科毎に最低36単位分を修得する必要がある。ただし、下線の引かれた必修科目は必ず修得すること。

（理科の実験科目については、コース毎に設けられた所定の実験科目1科目を必ず履修すること）

表の中で●が付されている科目（教職必修科目）は卒業要件の単位に含むことはできない。

なお、農業免許又は水産免許のみ取得を希望する者も、附属中学校での実習を行うため、教科教育法（中等理科）、教科教育法（理科）は必修となるため注意すること。

表1 教育の基礎的理解に関する科目等（※3年次より受講）

施行規則に定める科目区分		宮崎大学で開設する 授業科目名	単位数	備考
科目	単位数			
教育の基礎的理解に関する科目	10	教育原理	2	
		教職入門	1	
		教育制度論	2	
		学校教育心理学	2	
		特別支援教育	1	
		教育課程論	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	8	総合的な探究の時間の指導法	1	
		特別活動論	2	
		教育の方法と技術（情報通信技術の活用を含む。）	2	
		生徒指導概論（進路指導を含む。）	2	
		教育相談（カウンセリングの基礎的知識を含む。）	2	
教育実践に関する科目	3	教育実習事前及び事後指導	1	4年次受講
		教育実習	2	4年次受講
	2	教職実践演習	2	4年次後学期受講
合計	23	合計	24	

表2 文部科学省令で定める科目

免許法施行規則に定める科目区分	宮崎大学で開設する授業科目名	単位数	備考
日本国憲法	日本国憲法（注）	2	2年次より受講可
体育	生涯スポーツ実践Ⅰ・Ⅱ（注） （1科目1単位：2単位分を履修する）	2	2年次より受講可
外国語コミュニケーション	英語Ac	2	教養教育科目（必修）
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報・データリテラシー	2	〃（必修）
合計		8	

（注）日本国憲法、生涯スポーツ実践は教員免許取得希望学生のみが受講対象となり、2年次以降に農学部教務・学生支援係が提示した手順で受講を申し込む必要がある。（受講人数上限や時間割の関係で、必ずしも2年次に受講できるとは限らない）履修申込については「4）受講科目登録に際しての注意」も併せて参照すること。

表3 教科及び教科の指導法に関する科目（農業）

施行規則に定める科目区分等		開講コース	授業科目名	履修時期		コースカリキュラム					単位数		最低修得単位数	備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項			学年	時期	動植物	森林	海洋	応生	必修	選択			
教科に関する専門的事項	農業の関係科目	動	GAP概論	1	後	○	○	○	○	2		30	36	
		動	栽培学	2	前	○					2			
		動	動物環境管理学	2	前	○					2			
		動	農業経済学	2	前	○					2			
		動	畜産食品科学	2	後	○			○		2			
		動	農場実習 I	2	前	○					1			
		動	牧場実習 I	2	前	○					1			
		動	果樹園芸学総論	2	前	○					2			
		動	施設園芸学	2	前	○					2			
		動	野菜園芸学総論	2	後	○					2			
		動	農場実習 II	2	後	○					1			
		動	野菜園芸学各論	3	前	○					2			
		動	栽培植物起源論	3	前	○					2			
		動	果樹園芸学各論	3	前	○					2			
		動	企画実習	2	通	○					1			
		動	雑草防除学	2	後	○	○				2			
		動	草地生産・土壌肥科学実験	2	前	○					1			
		動	草地植生管理学	3	前	○					2			
		動	植物遺伝資源学	3	前	○			○		2			
		動	植物栄養生化学	3	後	○			○		2			
		動	作物生産学	3	後	○					2			
		動	生産流通施設学	3	前	○					2			
		動	社会統計学	3	後	○					2			
		動	園芸利用学	2	後	○					2			
		動	畜産食品製造学	3	前	○			○		2			
		動	農業経営学	3	前	○					2			
		動	農業・社会調査実習	3	前	○					1			
		動	動物生殖生理学	2	後	○					2			
		動	家畜栄養学	2	後	○					2			
		動	飼料学	3	前	○					2			
		動	動物育種学	3	前	○					2			
		動	牧場実習 II	3	通	○					1			
		動	作物学総論	2	前	○					2			
		動	草地畜産論	2	前	○					2			
		動	飼料作物学	2	前	○					2			
		森	景観生態学	1	後		○				2			
森	樹木学	2	前		○				2					
森	樹木学実習	2	前		○				2					
森	森林計測学	2	後		○				2					

施行規則に定める科目区分等		開講コース	授業科目名	履修時期		コースカリキュラム				単位数		最低修得単位数	備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項			学年	時期	動植物	森林	海洋	応生	必修	選択		
教科に関する専門的事項	農業の関係科目	森	森林経済学	2	後		○				2		
		森	森林計測学実習	2	後		○				2		
		森	測量学	3	前		○				2		
		森	造林学	3	前		○				2		
		森	森林利用学	3	前		○				2		
		森	森林政策学	3	前		○				2		
		森	水理学	3	前		○				2		
		森	農山村環境計画学	3	前		○				2		
		森	森林資源利用科学	3	前		○				2		
		森	測量学実習	3	前		○				1		
		森	森林計画学	3	後		○				2		
		森	森林保護学	3	後		○				2		
		森	環境空間情報学	3	後		○				2		
		森	森林応用生態学	3	後		○				2		
		森	森林土木学実習	3	後		○				2		
		森	植生調査実習	3	後		○				2		
		森	造林学実験実習	3	通		○				2		
		応	食品製造学	2	後	○			○		2		
		応	農産食品製造学	3	前	○			○		2		
		職業指導		職業指導	3	前	●	●	●	●	2	2	集中(3年生以上)
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)			農業科教育法Ⅰ	3	前	○	△	△	△	2	4		
	農業科教育法Ⅱ	3	後	○	△	△	△	△	2				

※下線は必修科目を示す。

※履修時期は開講コースにおける履修時期を記載している。

(別のコースでは履修時期が異なることがある。また、履修時期が変更となることがある)

※農業免許のみ取得する場合も、教科教育法(中等理科)・教科教育法(理科)は必修である。

※海洋生命科学コース、応用生命化学コースにおいては、農業教員免許の取得のためにはコース外選択科目を受講する必要がある。

<コースカリキュラム説明>

○：コースカリキュラム内で必修・選択科目として定められている科目

●：教員免許用の開講科目であり、卒業要件単位数に計上されない科目

△：当該免許取得必修科目であり、農学科カリキュラム上ではコース外選択科目として扱われる科目

上記の表に計上されている科目であれば、他コース開講科目の単位を修得した場合も教職科目単位として計上可能(8単位までコース外選択科目として卒業要件単位数に計上可能)

表4 教科及び教科の指導法に関する科目（水産）

施行規則に定める科目区分等		授業科目名	履修時期		単位数		最低修得単位数	備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項		学年	時期	必修	選択		
教科に関する専門的事項	水産の関係科目	海洋生物環境学概論	1	前	<u>2</u>		30 36	
		環境微生物学	2	前		2		
		水域生物生理学	1	後		2		
		魚類生理学	2	前	<u>2</u>			
		水族生理学実験	2	後		2		
		水産食品微生物学	2	前	<u>2</u>			
		水産食品製造学	2	後		2		
		海洋微生物学実験	3	前		2		
		水産食品科学	1	前		2		
		マリンバイオテクノロジー	2	前		2		
		水族生産学体験講座	3	後		2		
		水産飼料学	3	前		2		
		魚病学	3	前	<u>2</u>			
		水産増養殖学	3	後		2		
		魚類生態環境学	3	後		2		
	動物生体防御学	2	後		2			
職業指導	職業指導	3	前	<u>2</u>		2	集中(3年生以上)	
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	水産科教育法	3	通	<u>4</u>		4		

※下線は必修科目を示す。

※上記科目は原則として海洋生命科学コースのカリキュラムで修得する。

(開講時期は変更となることがある)

ただし「職業指導」は卒業要件単位数に計上されない。

※水産免許のみ取得する場合も、教科教育法（中等理科）・教科教育法（理科）は必修である。

表5 教科及び教科の指導法に関する科目（理科）

施行規則に定める科目区分等		開講コース	授業科目名	履修時期		コースカリキュラム				単位数		最低修得単位数	備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項			学年	時期	動植物	森林	海洋	応生	必修	選択		
教科に関する専門的事項	物理学	森	基礎物理学	2	前	△	○	△	△	2		2	
		動	生物生産機械学	2	後	○					2		
		動	生物計測工学	3	前	○					2		
		森	構造力学	2	後		○				2		
		森	土質力学	2	後		○				2		
		森	応用力学・水理学	3	後		○				2		
	化学	応	化学概論	1	後	○	○	○	○	2		4	
		応	有機化学	1	後	△	△	△	○	2			
		動	青果代謝生理学	3	前	○					2		
		海	水産化学	2	前	○		○			2		
		海	基礎海洋資源科学	1	後	○	○	○	○		2		
		海	海洋分子科学	3	後			○			2		
		応	化学各論	2	前				○		2		
		応	生物分子化学	2	前				○		2		
		応	分析化学	2	後	○		○	○		2		
		応	酵素化学	2	前				○		2		
	応	生体分子機能化学	3	前				○		2			
	生物学	動	基礎動植物学	1	後	○	○	○	○	2		2	36
		動	動物行動学	1	後	○	○	○	○		2		
		応	生命化学概論	1	後	○	○	○	○		2		
		海	基礎行動・生態学	1	後	○	○	○	○		2		
		動	植物育種学	2	後	○			○		2		
		動	花き園芸生理学	2	後	○					2		
		動	果樹園芸生理学	2	後	○					2		
		動	昆虫生態学	2	前	○					2		
		動	植物病理学総論	2	前	○	○				2		
		動	植物病理学各論	2	後	○	○				2		
		動	総合的害虫管理学	3	前	○					2		
		動	衛生微生物学	2	後	○					2		
		動	動物育種資源学	2	前	○					2		
		動	動物生殖制御学	3	前	○					2		
		動	草地と草食獣の生態学	2	後	○					2		
		森	木本植物組織学	2	前		○				2		
		森	森林生態学	2	前		○				2		
		森	樹木生態生理学	2	後		○				2		
	海	海洋生物分類学	2	前			○			2			
海	生物の多様性と遺伝子科学	2	後			○			2				
海	魚類学	2	前			○			2				
海	養殖学入門	2	前			○			2				
海	サンゴ礁学	2	後			○			2				
海	水族病原微生物学	2	前			○			2				

施行規則に定める科目区分等		開講コース	授業科目名	履修時期		コースカリキュラム					単位数		最低修得単位数	備考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項			学年	時期	動植物	森林	海洋	応生	必修	選択			
		海	微生物との共生	3	後			○				2	2	
		海	遺伝子工学	2	後	○		○	○			2		
		応	微生物学	2	前				○			2		
		応	食品栄養化学	2	後				○			2		
		応	応用微生物学	2	後				○			2		
		応	食品機能化学	3	前				○			2		
		応	植物生理学	2	前	○			○			2		
地学			地学概論	3	後	●	●	●	●	2		2		
	森		環境気象学	1	後	○	○	○	○		2			
	動		土壌肥料学	2	前	○	○		○		2			
	動		農地環境工学	2	前	○	○				2			
	森		環境防災学	2	前		○				2			
	森		砂防学	2	後		○				2			
	森		水資源管理学	3	後		○				2			
海		浅海生態学	2	前			○			2				
「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」	動		植物生産科学実験Ⅱ(*)	2	後	○	-	-	-		1	1	(*)の実験科目のうち、コースに対応した1科目を必修とする	
	動		植物遺伝資源・育種学実験(*)	2	後	○	-	-	-		1			
	動		動物生殖生理学実験(*)	3	後	○	-	-	-		1			
	森		木本植物組織学実験(*)	2	前	-	○	-	-		2			
	海		水産化学実験(*)	2	後	-	-	○	-		2			
	応		分析化学実験(*)	2	前	-	-	-	○		1			
	動		植物生産科学実験Ⅰ	2	前	○	-	-	-		1			
	森		環境材料学演習	3	前	-	○	-	-		2			
	森		森林資源利用科学実験	3	後	-	○	-	-		1			
	海		水生生物解剖分類学実験	2	前	-	-	○	-		2			
	海		延岡フィールド臨海実習	2	前	-	-	○	-		2			
	応		微生物学実験	2	前	-	-	-	○		1			
応		有機化学実験	2	後	-	-	-	○		1				
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)			教科教育法(中等理科)	3	前	●	●	●	●	2		4		
			教科教育法(理科)	3	前	●	●	●	●	2				

※下線は必修科目を示す。

※履修時期は開講コースにおける履修時期を記載している。

(別のコースでは履修時期が異なることがある。また、履修時期が変更となることもある)

<コースカリキュラム説明>

○：コースカリキュラム内で必修・選択科目として定められている科目

●：教員免許用の開講科目であり、卒業要件単位数に計上されない科目

△：当該免許取得必修科目であり、農学科カリキュラム上ではコース外選択科目として扱われる科目

上記の表に計上されている科目であれば、他コース開講科目の単位を修得した場合も教職科目単位として計上可能(8単位までコース外選択科目として卒業要件単位数に計上可能)ただし、-が付いている科目(実験科目)は原則として他コース科目の受講は不可。

4) 受講科目登録に際しての注意

1. 前学期及び後学期の受講科目登録時に教職関係の科目も併せて登録すること。
登録の際は、農学部用と工学部用に分かれている科目があるので注意すること。
2. 講義コード・開講時期・授業担当教員・教室については、農学部教職科目用の時間割および農学部専門科目時間割で確認すること。(時間割は毎年変わるので、最新版で確認)
3. 教育実習事前及び事後指導、教育実習の科目登録は4年次の前学期に、教職実践演習は後期に科目登録を行う。
4. 文部科学省令で定める科目の一部(英語Ac、情報・データリテラシー：教養教育科目)を除き、他の教職関連科目はすべて専門科目、もしくは教職科目である。
5. 農業免許又は水産免許のみ取得を希望する者も、附属中学校での実習を行うため、教科教育法(中等理科)、教科教育法(理科)は必修となるので注意すること。
6. 「日本国憲法」「生涯スポーツ実践」は、教職科目(卒業単位に含まれない)として開講する。教員免許取得希望生のみが2年次から履修可能で、農学部教務・学生支援係が科目登録処理を行う(学生は登録できない)ため、履修を希望する学生は2月以降にポータルサイト等の連絡事項に従って申し込むこと。(※人数上限があるため、申込多数の場合は3年次以降が優先)

5) 教育実習

1. 教育実習は附属中学校で行われる基本実習(3日間・4年次の4～5月)及び各実習高校での応用実習(2週間程度・高校によって時期が異なる)がある。
2. 単位は事前事後指導1単位と、応用実習及び基本実習を合わせて2単位の合計3単位とする。
3. 3年次の4月中旬に教育実習校を決めるためのオリエンテーションを実施するので、掲示等に注意すること。(実習を行う前年度に高校から内諾を得る。)内諾後は教育実習を取りやめることはできないので、よく考えて実習の参加を決めること。
4. 賠償責任保険(学研災付帯賠償責任保険(学研賠)等)に加入すること。
5. 教育実習による授業の欠席は、原則として特別欠席とはならないため注意すること。
6. 教育実習の欠席は厳禁である。
7. 教育実習の受講に際し、麻疹の免疫があることが必須条件である。
3年次の4月中旬に実施するオリエンテーションにて、麻疹に関する文書(様式)を配付する。
4年次に教育実習の受講を希望する者は、3年次に麻疹の免疫があることの証明を提出すること。

6) 教育実習履修資格

教育実習を行う者は、次の条件をそなえた者に限る。

1. 教員採用試験受験予定の者
2. 各教科の指導法〔農業科教育法Ⅰ・Ⅱ、水産科教育法、教科教育法(中等理科)・教科教育法(理科)〕を修得している者又は受講中の者

7) 教員免許状の申請について

免許状は、都道府県の教育委員会に必要書類を取りそろえ申請することにより授与される。農学部生分はとりまとめて宮崎県教育委員会へ申請するので、別途指定する期日までに教務・学生支援係に提出すること。(卒業日に授与される)

なお、卒業後に申請する者は各自で各都道府県教育委員会に申請しなければならない。また、免許状授与後に免許状に関する問い合わせを行う場合は、発行元の教育委員会へ行うこと。

8) 高等学校教諭専修免許状の取得について

宮崎大学大学院農学研究科では、農業又は水産の高等学校教諭一種免許状の取得資格を有している者が別に定める単位を修得し、各都道府県の教育委員会に申請をすれば、高等学校教諭専修免許状を取得することができる。農学研究科では理科の専修免許状は取得できないため注意すること。

9) その他

- ・教員免許状取得希望者に対する科目履修等の説明会を4月(1・2年生対象)と12月(2年生対象)に行う。希望者は参加すること。
- ・教員免許状取得に関して不明な点がある場合は、教務・学生支援係まで問い合わせること。
- ・住所・電話番号等、届け出ている事項に変更が生じた場合は、教務・学生支援係へ知らせること。
- ・各種伝達事項は掲示板等で行うため、常時、教育学部・農学部の掲示や連絡事項に留意すること。

【参考資料】

「教育職員免許法」及び「教育職員免許法施行規則」に定められた科目履修条件

高等学校教諭一種（農業）免許状、高等学校教諭一種（水産）免許状及び高等学校教諭一種（理科）免許状を取得するには、上記法律の定めに基づいて「教育の基礎的理解に関する科目等」（表6）から23単位、「教科及び教科の指導法に関する科目」（表7）から24単位を履修したうえで、表6・表7に属する他の科目を含めて計59単位を修得しなければならない。

表6 教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分	各科目に含めることが必要な事項	宮崎大学で開設する授業科目名	最低修得単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	10
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職入門	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育制度論	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	学校教育心理学	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な探究の時間の指導法	総合的な探究の時間の指導法	8
	特別活動の指導法	特別活動論	
	教育の方法及び技術	教育の方法と技術（情報通信技術の活用を含む。）	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	生徒指導概論（進路指導を含む。）	
	生徒指導の理論及び方法	教育相談（カウンセリングの基礎的知識を含む。）	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的知識を含む。）の理論及び方法		
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習事前及び事後指導 教育実習	3
	教職実践演習	教職実践演習	2
	合計		23

表7 教科及び教科の指導法に関する科目

免許教科			最低必要単位数	
農業	教科に関する専門的事項	農業の関係科目	24	18
		職業指導		2
	各教科の指導法	農業科教育法Ⅰ		2
		農業科教育法Ⅱ		2
水産	教科に関する専門的事項	水産の関係科目	24	18
		職業指導		2
	各教科の指導法	水産科教育法		4
		理科		教科に関する専門的事項
化学	1			
生物学	1			
地学	1			
物理学実験	1			
化学実験				
生物学実験				
地学実験				
各教科の指導法	教科教育法（中等理科）	2		
	教科教育法（理科）	2		

※「教科及び教科の指導法に関する科目」の最低必要単位数は24単位であるが、免許状の取得には最低59単位の修得を要する。残り12単位を各教科の「教科及び教科の指導法に関する科目」から修得するため、表3～表5における最低修得単位数を36単位としている。

(2) 学芸員資格の取得について

- 1) 学芸員は、国・公・私立等の博物館等において、資料の収集・保存・管理、展示、調査研究、教育・普及活動等の専門的業務に従事する。
- 2) 学芸員の資格を取得するには、博物館法施行規則の定める科目（①表）19単位、併せて教育学部の定める科目（②表）、工学部の定める科目（③表）ならびに農学部が定める科目（④表）について2科目区分以上にわたる8単位以上を修得しなければならない。
 ②表～④表の科目については、所属学部のものを受講することを原則とする。なお、工学部及び農学部の学生で、文化史、美術史の科目区分の単位修得を希望する場合については、他学部受講の手続きの上、受講することができる。
- 3) 博物館実習は、「博物館実習履修要項」により実施する。なお、博物館実習を履修するためには、次の2つの条件を満たしていなければならない。
 - ・①表の科目のうち、博物館実習を除く科目の単位の12単位以上を修得しているか修得見込みであること。
 - ・②表～④表の科目のうち、2科目区分以上にわたる科目の4単位以上を修得しているか修得見込みであること。
- 4) 所定の単位を修得した者には、卒業後、願い出により「学芸員に関する科目の単位修得証明書」を交付する。

① 表 博物館法施行規則の定める科目

博物館法施行規則が定める科目 ()内は単位数	宮崎大学の授業科目	単位数	配当学年
生涯学習概論(2)	生涯学習論	2	2年前学期
博物館概論(2)	博物館概論	2	2年前学期
博物館経営論(2)	博物館経営論	2	3年前学期
博物館資料論(2)	博物館資料論	2	3年集中
博物館資料保存論(2)	博物館資料保存論	2	3年集中
博物館展示論(2)	博物館に学ぶ「モノの見方と見せ方」	2	2年集中
博物館教育論(2)	「人生の各ステージにおける学び」と博物館	2	2年後学期
博物館情報・メディア論(2)	博物館情報・メディア論	2	2年集中
博物館実習(3)	博物館実習Ⅰ	2	4年通年
	博物館実習Ⅱ	1	4年通年
単 位 計		19	

注)「生涯学習論」、「博物館概論」、「博物館に学ぶモノの見方と見せ方」、「人生の各ステージにおける学びと博物館」は教養教育科目。そのうち、「博物館に学ぶモノの見方と見せ方」、「人生の各ステージにおける学びと博物館」は、1年後期でも受講できるが、資格取得を希望する者は、2年前学期に「博物館概論」を受講した後に、上記①表のとおり2年後学期に受講することが望ましい。

②表 教育学部の定める科目

科目区分	教育学部の授業科目	単位
文 化 史	日本史概論	2
	日本史特論	2
	外国史概論	2
美 術 史	美術鑑賞基礎(鑑賞、日本の伝統美術、アジアの美術を含む)	2
	美術理論Ⅱ	2
	美術理論Ⅲ	2
物 理 学	物理学概論Ⅰ	2
	物理学概論Ⅱ	2
化 学	化学概論Ⅰ	2
	化学概論Ⅱ	2
生 物 学	生物学概論Ⅰ	2
	生物学概論Ⅱ	2
地 学	地学概論Ⅰ	2
	地学概論Ⅱ	2

注1) 配当学年についてはプログラム等で異なるものがあるので、各自確認の上、受講すること。

③表 工学部の定める科目

科目区分	工学部の授業科目	単位数
物理学	物理科学Ⅰ	2
	物理科学Ⅱ	2
	力学Ⅰ	2
	力学Ⅱ	2
	電磁気学Ⅰ	3
	統計力学	2
	量子力学	2
	量子線計測工学	2

科目区分	工学部の授業科目	単位数
化学	化学概論	2
	物理化学Ⅰ	2
	有機化学Ⅰ	2
	無機化学Ⅰ	2
	分析化学	2
生物学	生物学概論 ※	2
	生命化学Ⅰ	2
	分子生物学	2
地学	地学概論 ※	2
	宇宙物理学	2

注1) 科目名の横に※があるものは、教育職員免許状取得のために開講している科目。

注2) 配当学年についてはプログラム等で異なるものがあるので、各自確認の上、受講すること。

④表 農学部の定める科目

科目区分	農学部の授業科目	単位数
物理学	基礎物理学	2
	生物生産機械学	2
	生物計測工学	2
	構造力学	2
	土質力学	2
	応用力学・水理学	2
化学	化学概論	2
	有機化学	2
	青果代謝生理学	2
	水産化学	2
	基礎海洋資源科学	2
	海洋分子科学	2
	化学各論	2
	生物分子化学	2
	分析化学	2
	酵素化学	2
	生体分子機能化学	2
生物学	基礎動植物学	2
	動物行動学	2
	生命化学概論	2
	基礎行動・生態学	2
	植物育種学	2
	花き園芸生理学	2
	果樹園芸生理学	2
	昆虫生態学	2
	植物病理学総論	2
	植物病理学各論	2
	総合的害虫管理学	2

科目区分	農学部の授業科目	単位数
生物学	衛生微生物学	2
	動物育種資源学	2
	動物生殖制御学	2
	草地と草食獣の生態学	2
	木本植物組織学	2
	森林生態学	2
	樹木生態生理学	2
	海洋生物分類学	2
	生物の多様性と遺伝子科学	2
	魚類学	2
	養殖学入門	2
	サンゴ礁学	2
	水族病原微生物学	2
	微生物との共生	2
	遺伝子工学	2
	微生物学	2
	食品栄養化学	2
	応用微生物学	2
	食品機能化学	2
	植物生理学	2
地学	地学概論 ※	2
	環境気象学	2
	土壌肥科学	2
	農地環境工学	2
	環境防災学	2
	砂防学	2
	水資源管理学	2
	浅海生態学	2

注1) 科目名の横に※があるものは、教育職員免許状取得のために開講している科目。

注2) 配当学年についてはコース等で異なるものがあるので、各自確認の上、受講すること。

【博物館実習履修要項】

博物館実習は次により実施する。

授業科目	学期		計	実習内容
	前	後		
博物館実習Ⅰ	2 (通年・集中)		2	学内実習(実習Ⅱに必要な基礎的知識や技術に関する実習)および実習の事前・事後指導
博物館実習Ⅱ	1 (通年・集中)		1	登録博物館等での実務実習。実習時期は受入博物館等の定めるところによる。

- (1) 実習Ⅱを履修しようとする者は、実習を希望する前年度(一般に3年生)の12月～1月上旬に開催される実習説明会に出席の上、出身都道府県を基本として、登録博物館あるいは博物館相当施設に実習の受入依頼をしておくこと。
- (2) 「博物館実習受講願い」を、実習を希望する年の1月下旬(提出期限は年度ごとに別途掲示する)までに所属学部の教務・学生支援係に提出すること。
- (3) 博物館実習Ⅰ・Ⅱの受講科目の登録は4年前期で行うこと。
- (4) 実習Ⅱの成績評価は、学芸員資格専門委員会で行う。
- (5) 実習Ⅱに必要な教材等は受講生が各自準備することを原則とする。
- (6) 実習Ⅱに必要な費用は個人負担とする。

(3) 食品衛生監視員及び食品衛生管理者の資格要件取得について

1) 食品衛生監視員とは、国や地方公共団体において、企業等に対して食品衛生に関する監視や指導の業務を行う者である。また、食品衛生管理者とは、特に衛生上の考慮を必要とする乳製品やその他の食品又は添加物製造や加工について、その製造・加工施設において管理・指導を行う者である。

本学卒業後、国や地方公共団体の衛生部門、食品関連企業等に就職する者にとっては、これらの職務に従事できる資格要件を満たすことが有益である。

農学科の学生は卒業までに下記に示す必要な科目を履修することで、食品衛生監視員及び食品衛生管理者の職務に従事する資格要件を満たすことができる。

資格要件を満たした後の職務従事に関する各種申請については、食品衛生監視員の場合は職務に係る官公庁、食品衛生管理者の場合は当該製造・加工施設ならびに当該地域の保健所の指示に従って各自で申請すること。

★注意事項：入学前に他大学等で修得した単位（食品衛生監視員及び食品衛生管理者の養成施設で修得した単位は除く）で、既修得単位として読み替えられた単位については、本資格の要件取得には使用できません。

区 分	授 業 科 目 名	開講 コース	配当 年次	配当 単位数	必修 単位数
A群 化学	化学概論 化学各論 分析化学	応生 応生 動植物	1 後 2 前 3 後	2 2 2	2 2 2
B群 生物化学	生物分子化学 酵素化学 生物化学	応生 応生 応生	2 前 2 前 2 後	2 2 2	2 2 2
C群 微生物学	微生物学 衛生微生物学 食品製造学	応生 動植物 応生	2 前 2 後 2 後	2 2 2	2 2 2
D群 公衆衛生学	公衆衛生学 食品衛生学	海洋 動植物・海洋	3 前 3 前	2 2	2 2
E群 その他の関連科目	園芸利用学 応用微生物学 遺伝子工学 水産化学 畜産食品科学 農産食品製造学 畜産食品製造学 水産食品製造学 食品保蔵化学	動植物 応生 海洋 海洋 動植物 動植物 応生 動植物 海洋 動植物	2 後 2 後 2 後 2 前 2 後 2 後 3 前 3 前 2 後 3 後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
必修単位数合計					40

※配属コースのカリキュラムに上記科目がない場合は、他コース科目として受講します。

※配当年次欄は開講コースにおける年次を記載しているため、配属コースのカリキュラムによっては受講可能な年次が上記の表と異なることがあります。

(4) 獣医師国家試験について

獣医師の資格を取得するためには、農林水産省が実施する獣医師国家試験に合格し、獣医師免許証の交付を受けなければなりません。この獣医師国家試験は毎年2月に福岡県を含む全国数カ所で実施されます。(実施時期に変更がある可能性があります。)

獣医師国家試験の施行に関する詳細は、農林水産省から発表された時点でお知らせしますが、出願手続等必要な事項については、毎年10月から11月にかけて6年生を対象として説明会を開催します。

◎獣医師免許申請時の注意事項

獣医師法第5条で、罰金以上の刑(科料は含まれない)に処された者には、「免許を与えないことがある」と定められています。該当する事例には、罰金の対象となるスピード違反、飲酒・酒気帯び運転、無免許運転及び人身事故を起こした場合等が含まれます。

罰金以上の刑に処された者は、獣医師免許申請の際に、その旨を記載するとともに、起訴状、判決謄本、罰金を納めた領収書、本人の上申書及び反省文の提出が必要になります。

以上のことを理解し、日ごろから安全運転に心がけることは当然ですが、万一上述のような違反・事故等を起こした場合は、速やかに教務・学生支援係へ報告してください。

獣医師国家試験および取得までの主なスケジュール(注1)

学年	時期	行事内容	注意事項
1～3	4月	新入生及び在学生オリエンテーション	
4	2～3月	獣医学共用試験	注2
5	4～3月	卒業研究着手 参加型臨床実習(伴侶動物、産業動物)	注3 注4
6	9月 11月 2月 3月	国家試験日程発表 国家試験願書、免許申請手続等書類注文 卒業論文審査会 卒業見込証明発行 国家試験受験 国家試験合格発表及び発行申請手続き 卒業式	任意 任意
卒業後	4月	獣医師免許証交付	

注1：2025年度現在のスケジュールであり、今後変更の可能性もあります。

注2：獣医学共用試験は、獣医学の参加型臨床実習開始前の学生の知識と技能を全国で標準化して評価する試験であり、平成28年度(2016年度)から正式実施となりました。NPO法人獣医系大学間獣医学教育支援機構が管理していますが、実際の試験は各獣医系大学がそれぞれのカリキュラムに合わせて自主的に実施し、評価結果の活用方法も各大学に任されています。この獣医学共用試験は、主として知識を評価するvetCBT(Computer-Based-Testing)と、技能・態度を評価する客観的臨床能力試験vetOSCE(Objective Structured Clinical Examination)とに分かれています。本試験を受験するためには受験料が必要となります(追再試験を受験する場合にも、受験料が必要です)。

獣医学科では、5年次から始まる伴侶動物及び産業動物参加型臨床実習の受講のために、この共用試験に合格していることが必要です。

注3：卒業研究に取り掛かる要件は、宮崎大学農学部卒業研究科目登録に係る要件及び参加型臨床実習受講に係る要件等に関する要項第2条を参照すること。

注4：参加型臨床実習の各科目の受講要件は、宮崎大学農学部卒業研究科目登録に係る要件及び参加型臨床実習受講に係る要件等に関する要項第3条を参照すること。

(5) 測量士補資格取得について

技術者として基本測量又は公共測量に従事する場合は、国家資格である測量士又は測量士補の資格を有した者でなければなりません。農学科森林環境持続性科学コースにおいて測量士補の資格を取得したい者は、卒業までに下表の測量に関する履修科目の中から30単位以上（ただし、測量学、測量学実習の単位は必ず修得すること）を修得することで、卒業後に国土地理院に申請することが可能となります。

また、測量士補の資格を取得したうえで卒業後に1年以上の測量実務経験を得たものは、申請により測量士の資格を得ることができます。

資格申請については国土地理院のホームページを参照し、各自で申請願います。

表 測量士補の資格取得に関して修得すべき測量に関する授業科目一覧表

区分	授業科目名	開講年次	単位数	備考
必修科目	測量学	3－前	2	
	測量学実習	3－前	1	
選択科目	環境気象学	1－後	2	左記の38単位の中から27単位以上を修得すること。
	景観生態学	1－後	2	
	森林生態学	2－前	2	
	環境防災学	2－前	2	
	基礎数学	2－前	2	
	基礎物理学	2－前	2	
	森林計測学	2－後	2	
	構造力学	2－後	2	
	砂防学	2－後	2	
	土質力学	2－後	2	
	森林計測学実習	2－後	2	
	水理学	3－前	2	
	農山村環境計画学	3－前	2	
	環境材料学演習	3－前	2	
	森林計画学	3－後	2	
	水資源管理学	3－後	2	
環境空間情報学	3－後	2		
応用力学・水理学	3－後	2		
森林土木学実習	3－後	2		
修得単位数合計			30	単位以上

※開講年次は農学科森林環境持続性科学コースのカリキュラムに基づきます。

(6) 自然再生士補資格取得について

- 1) 「自然再生士」とは、自然再生に必要な知識・技術・経験を有する、自然再生の推進者です。自然再生士には、自然再生に係る事業全体を把握し、調査・計画・設計・施工・管理の、各々の事業段階において行われるべき業務や活動において、これに係わる人々をコーディネートするとともに、自ら担当する自然再生を実行できる能力が求められます。自然再生士の資格試験を受験するためには、自然再生に係る業務経験が3年以上必要となりますが、自然再生士補の資格を取得した者は自然再生に係る業務を1年間経験すると自然再生士の資格試験受験資格を得ることができます。
- 2) 農学科では下記の分野別対応表の科目の単位を次の①、②のいずれかのとおりに修得すると資格の申請ができます。
 - ①：講義科目分野から2科目4単位以上、実験実習科目分野から3科目6単位以上取得
 - ②：講義科目分野又は実験実習科目分野から6科目12単位以上取得
 資格申請については、一般財団法人日本緑化センターのホームページを参照し、各自で申請願います。

●分野別科目対応表

	指定分野	科目	単位数
講義分野	①自然再生・自然環境概論	森林環境持続性科学概論	2
	②自然再生・自然環境保全に係る計画（設計）学	森林計測学	2
		森林計画学	2
		農山村環境計画学	2
	③自然再生・自然環境保全に係る施工計画・施工学	砂防学	2
	④自然再生・自然環境保全に係る維持管理計画・管理学	景観生態学	2
	⑤植物（草本類、木本類、水生植物等）分類・生態・生理学	植物病理学総論	2
		植物病理学各論	2
		樹木学	2
		森林生態学	2
		樹木生態生理学	2
⑥動物（哺乳類、は虫類、両生類、昆虫、鳥類、魚類等）分類・生態・生理学	森林保護学	2	
⑦環境リスクマネジメント学	環境計測学	2	
⑧環境経済学	基礎環境資源経済学	2	
⑨環境社会学	森林政策学	2	
⑩地域環境学・地域生態論			
⑪環境関連法規			
実験・実習(演習)分野	①自然環境調査と分析、評価に係る実習・演習	農学基礎実験・実習Ⅰ	1
		森林計測学実習	2
	②動・植物同定調査に係る実習・演習 (森林動物学実習、森林昆虫学実習を含む)	樹木学実習	2
		農学基礎実験・実習Ⅱ	1
	③地域環境資源調査に係る実習・演習		
	④自然環境保全活動に係る実習・演習		
⑤生態学実習・演習	植生調査実習	2	
⑥プレゼンテーション・コーディネート能力育成に係る実習			

(7) 樹木医補資格取得について

- 1) 樹木医とは、樹木の診断及び治療、後継樹の保護育成並びに樹木保護に関する知識の普及及び指導を行う専門家です。樹木医になるには樹木医研修を受講して、樹木医資格審査に合格しなければなりません。この樹木医の審査を受けるには、樹木の保護、樹勢回復・治療に関する研究又は実務の従事期間が7年以上必要となりますが、樹木医補の資格を取得した者は樹木の保護等の業務を1年間経験すると樹木医研修受講者応募資格を得ることができます。
- 2) 樹木医補資格を取得するためには、下表の科目を次のように取得すると申請ができます。講義科目は、講義分野9分野から6分野以上を選び、14単位の履修が必要です。実験・実習科目は、4分野4科目以上の履修が必要です。資格申請については、一般財団法人日本緑化センターのホームページを参照し、各自で申請願います。

別表

分野別の科目対応表

		宮崎大学	
		講義科目	実験・実習科目
分 野	樹木の分類	樹木学②	樹木学実習②
	樹木の生態・生理	森林生態学② 樹木生態生理学② 造林学②	造林学実験実習②
	立地・土壌	土壌肥料学②	農学基礎実験・実習Ⅰ（森林環境持続性科学コース）①
	植物病理	植物病理学総論② 植物病理学各論②	
	昆虫・動物	森林保護学②	
	樹木医学		
	農薬科学		
	造園学	景観生態学②	森林計測学実習②
	樹木医補総合		農学基礎実験・実習Ⅱ（森林環境持続性科学コース）①

(8) 森林情報士 2 級資格取得について

- 1) 森林情報士制度は、空中写真やリモートセンシングからの情報の解析技術、GIS 技術等を用いて森林計画、治山、林道等、さらには地球温暖化問題解析などの事業分野に的確に対応できる専門技術者の養成を目的とした資格認定制度です。資格には、森林航測、森林リモートセンシング、森林 GIS の 3 つの部門があります。
- 2) 本学では、下表の科目を次のように取得すると、森林リモートセンシング部門および森林 GIS 部門の資格が申請できます。
 - A 群は、2 分野以上から講義科目 8 単位以上、実習科目 4 単位以上の履修が必要です。
 - B 群は、各部門について講義科目と実習科目の合計 1.5 単位以上の履修が必要です。ただし、上記単位を履修した上で、次のいずれかの要件を満たす必要があります。
 - ①卒業後 5 年以内に当該団体の主催する事前学習および 2 日間の森林情報士 2 級実習セミナーに受講し合格すること。
 - ②卒業後 5 年以内に当該森林情報士部門関係に直接に関わる実務を 1 年以上経験し、本会主催の事前学習、レポート試験審査に合格すること。
 - ③資格を得ようとする部門に係わる卒業論文に必要な単位(1.5 単位相当)を取得すること。資格申請については、一般社団法人日本森林技術協会のホームページを参照し、各自で申請願います。

別表

A 群（森林学一般科目）の分野別の科目対応表

分野	宮崎大学	
	講義科目	実習（演習）科目
管理・経営	森林計画学（1.3 単位相当） 森林経済学②	森林計測学実習（1.3 単位相当）
育成・利用	造林学②	農学基礎実験・実習 I ① 造林学実験実習②
生態・保護	樹木学② 森林生態学②	樹木学実習② 植生調査実習②
水土保全	環境気象学② 砂防学②	農学基礎実験・実習 II ①

B 群（森林情報士部門別関係群科目）の分野別の科目対応表

部門	宮崎大学	
	講義科目	実習（演習）科目
森林リモートセンシング	森林計測学（0.4 単位相当） 環境空間情報学（0.5 単位相当）	環境空間情報学（0.9 単位相当） 森林計測学実習（0.7 単位相当）
森林 GIS	森林計測学（0.1 単位相当） 水資源管理学（0.4 単位相当） 環境空間情報学（0.3 単位相当）	水資源管理学（0.3 単位相当） 森林土木学実習（0.4 単位相当） 環境空間情報学（0.3 単位相当） 森林計画学（0.7 単位相当）

(9) 実験動物一級技術者の在学受験資格について

1) 薬剤、栄養物質、環境汚染物質などの化学物質、それらの人体への影響を評価するのに動物実験は欠かせません。動物実験を適正に実施するのに必要な高度技術を備えた専門家、それが実験動物一級技術者です。農学科動植物資源生命科学コースは公益社団法人日本実験動物協会が主催する実験動物一級技術者資格認定試験を在学中に受験することができる特例認定を受けており、下表に示した所定の科目を履修すれば、本来は受験前に実務経験が必要な同試験を4年次に受験できます。学科試験および2種の実技試験に合格した者は実験動物一級技術者の資格を得ることができます。

2) 修得すべき授業科目について

授業科目名	単位数
講義	
実験動物学	2
動物解剖学Ⅰ	2
動物解剖学Ⅱ	2
動物生理学Ⅰ	2
動物生理学Ⅱ	2
動物育種学	2
動物生殖生理学	2
動物生殖制御学	2
薬理学Ⅰ	2
毒性学	2
家畜栄養学	2
動物環境管理学	2
動物衛生学	2
実験動物学各論	1
動物福祉学	2
実習	
動物解剖学実習	1
家畜栄養学実験	1
動物生殖生理学実験	1
実験動物学実習	1

(10) 飼料製造管理者資格の有資格者取得について

- 1) 飼料製造管理者制度は、「飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律」に基づき、特別の注意を必要とする飼料等（落花生油かす・尿素・ジウレイドイソブタンを原料とする飼料，抗菌性物質製剤を含む飼料，飼料添加物）を製造する際に，その飼料等の製造を実地に管理するため，その事業場ごとに法令に定められた資格を有する飼料製造管理者を設置する制度です。
- 2) 上記 1) の特別の注意を必要とする飼料等を製造する事業場（飼料会社や会社組織の牧場等）に就職し，飼料製造管理者が設置される場合に，卒業証明書および成績証明書の写し，履歴書および製造業者との雇用証明書を，飼料製造管理者届けとともに農林水産大臣宛てに提出する必要があります。ただし，資格を証明するための免許（ライセンス）や個人に対しての証明書の発行等はありません。
- 3) 当該資格の取得に関心のある学生は，初年次に農学部教務・学生支援係またはクラス担任まで相談してください。

(11)International GAP(国際的適正農業規範)対応の食料管理専門技術者養成教育について

- 1) 本教育プログラムは、国際標準の適正農業規範（GAP）にもとづいて、農業生産現場から農産物の流通・加工・小売までの工程における農場管理と販売管理、食の安全、環境保全型農業、労働安全について理解することにより、専門性の高い食料管理専門技術者の養成を目的としている。農学科動植物資源生命科学コースにおいては、本教育プログラムに関する科目の単位を修得することで、卒業時に本教育プログラムの修了証明書を受けることができる。農業および食品関連企業等に就職する者にとっては、本教育プログラムを修了することが有益である。
- 2) 食料管理専門技術者養成教育の受講および修了基準について
 - (1) ①表にある GAP コア科目については、各科目区分の最低修得単位数以上を修得すること。
 - (2) ②表にある GAP 関連科目は、各科目区分にわたって幅広く履修することが望ましい。
 - (3) 講義形式等の都合により、受講者数を制限することがある。
 - (4) 受講するにあたり、交通費等の一部自己負担が発生する場合がある。

① GAP コア科目（必修科目）

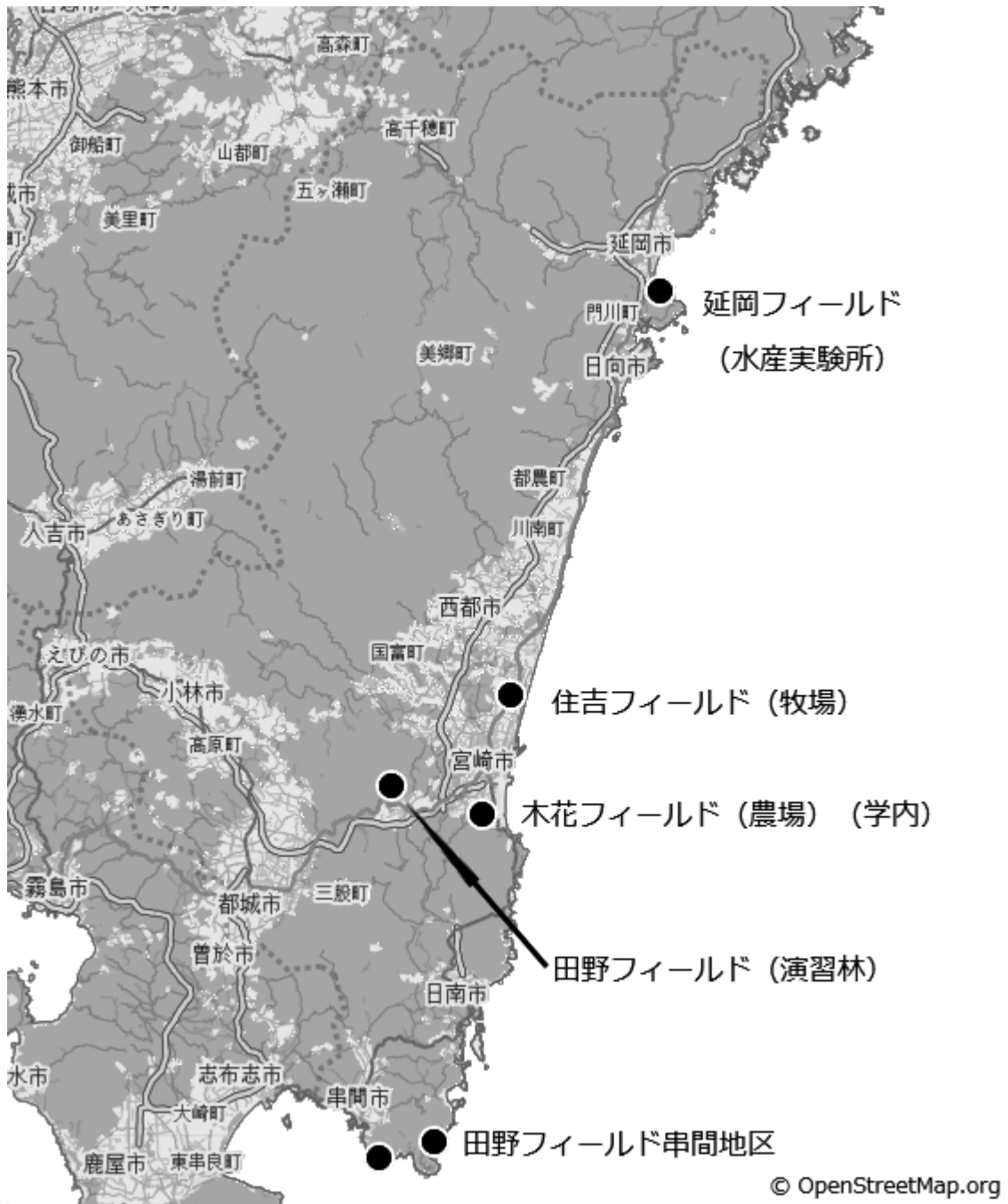
科目区分	最低修得単位数	科目名
GAP 概論	4	アグリイノベーション概論(2)、GAP 概論(2)
GAP 模擬実習	2	農学基礎実験・実習Ⅰ※(1)および農学基礎実験・実習Ⅱ※(1)
インターンシップ および GAP 認証農場等での実習	2	農場実習Ⅰ(1)、農場実習Ⅱ(1)、スマート農業インターンシップ(1)、学外体験実習※(2)、企画実習(1)、フィールド実践実習(農場)(2)
GAP 指導員講座	1	GAP 指導員講座(1)
農業技術者倫理	1	農学・獣医学の倫理と安全(1)
専門英語	2	農学・獣医学専門英語演習(2)
卒業研究	8	卒業研究※(8)

※印の科目については動植物資源生命科学コースの単位を修得すること。

② GAP 関連科目（選択科目）

科目区分	科目名
食の安全と品質向上に関する科目	栽培学(2)、植物生理学(2)、植物病理学総論(2)、作物学総論(2)、野菜園芸学総論(2)、野菜園芸学各論(2)、園芸利用学(2)、果樹園芸生理学(2)、作物生産学(2)、青果代謝生理学(2)、施設園芸学(2)、果樹園芸学各論(2)、生産流通施設学(2)、花き園芸生理学(2)、動植物生産データサイエンス(2)
生産環境保全に関する科目	農地環境工学(2)、果樹園芸学総論(2)、栽培植物起源論(2)、昆虫生態学(2)、植物生産科学実験Ⅰ(1)、植物生産科学実験Ⅱ(1)、植物病理学各論(2)、総合的害虫管理学(2)、土壌肥科学(2)、雑草防除学(2)
労働安全に関する科目	動植物生産データエンジニアリング(1)、生物生産機械学(2)、生物計測工学(2)
農場運営と販売管理に関する科目	農業経済学(2)、社会統計学(2)、農業・社会調査実習(1)、農業経営学(2)、国際農業論(2)

農学部附属次世代農学教育研究センター配置図



農学部教員一覧表

学部長 國武 久登
 副学部長（教務担当） 田中 秀典
 学外からの電話：（0985）58－（内線番号）

【農学科 動植物資源生命科学コース】

（動物系）

職階	氏名	内線番号	備考
教授	續木 靖浩	7195	
教授	飛佐 学	7260	
教授	井戸田 幸子	7249	
教授	田中 秀典	7194	
教授	坂本 信介	7200	
教授	井上 慶一	7864	
教授	井口 純	7507	
教授	河原 聡	7204	
准教授	石田 孝史	7198	
准教授	高橋 俊浩	7936	
准教授	徳永 忠昭	7199	
准教授	安在 弘樹	7253	
准教授	仲西 友紀	7203	
准教授	石垣 元気	TEL 39-1034	
准教授	新美 光弘	7258	
准教授	西村 慶子	7202	
助教	右京 里那	7197	
教授	越本 知大	TEL 85-2971	*
准教授	篠原 明男	TEL 85-2971	*
助教	名倉 悟郎	TEL 85-2971	*
助教	権藤 崇裕	7168	**

（植物系）

職階	氏名	内線番号	備考
教授	山本 直之	7173	
教授	湯浅 高志	7158	
教授	竹下 稔	7169	
教授	圖師 一文	7174	
教授	國武 久登	7166	
教授	佐伯 雄一	7206	
教授	本勝 千歳	7988	
教授	宇田津 徹朗	7256	
教授	中村 薫	7789	
准教授	狩野 秀之	7172	
准教授	木下 統	7242	
准教授	槐島 芳徳	7247	
准教授	増田 順一郎	7187	
准教授	稲葉 靖子	7164	
准教授	安達 鉄矢	7547	
准教授	平野 智也	7167	
准教授	山本 昭洋	7208	
准教授	日吉 健二	7245	
講師	松尾 光弘	7579	
助教	霧村 雅昭	7576	

* フロンティア科学総合研究センター 生物資源分野

** フロンティア科学総合研究センター 遺伝資源分野

【農学科 森林環境持続性科学コース】

職階	氏名	内線番号	備考
教授	伊藤 哲	7178	
教授	藤掛 一郎	7189	
教授	雉子谷 佳男	7180	
教授	光田 靖	7183	
教授	高木 正博	TEL 86-0036	
教授	平田 令子	7177	
准教授	竹下 伸一	7236	
准教授	中園 健文	7240	
准教授	櫻井 倫	7184	
准教授	篠原 慶規	7939	
准教授	徳本 雄史	7865	
助教	小柳 賢太	7239	
助教	瀬戸 美文	7190	

【農学科 応用生命化学コース】

職階	氏名	内線番号	備考
教授	吉田 ナオト	7218	
教授	榊原 陽一	7211	
教授	山崎 正夫	7209	
教授	服部 秀美	7255	
教授	稲葉 丈人	7899	
准教授	江藤 望	7210	
准教授	井上 謙吾	7798	
准教授	黒木 勝久	7207	
准教授	小川 健二郎	7234	
准教授	西川 美宇	7213	
助教	清 啓自	7217	
助教	横山 大悟	7212	
准教授	塩田 拓也	TEL 85-9866	*

* フロンティア科学総合研究センター 実験支援部門RI分野

【農学科 海洋生命科学コース】

職階	氏名	内線番号	備考
教授	吉田 照豊	7231	
教授	林 雅弘	7225	
教授	田中 竜介	7228	
教授	深見 裕伸	7221	
教授	長野 直樹	7227	
教授	田岡 洋介	7232	
教授	引間 順一	7230	
教授	内田 勝久	TEL(0982)37-0327	
准教授	ウルバンチック・ヘンリック・カロール	7226	
准教授	林 康広	7582	
准教授	村瀬 敦宣	TEL(0982)20-7230	
准教授	河野 智哉	7866	
准教授	宮西 弘	7223	
准教授	西木 一生	7229	
助教	和田 葉子	7233	

【獣医学科】

研究室名	職階	氏名	内線番号	備考
獣医解剖学	教授	保田昌宏	7264	
獣医解剖学	准教授	脇谷晶一	7273	
獣医生理学	教授	井田隆徳	7581	
獣医生理学	准教授	丸山圭介	7265	
獣医薬理学	教授	池田正浩	7268	
獣医薬理学	准教授	園田紘子	7269	
獣医病理学	教授	平井卓哉	7272	
獣医病理学	助教	福家直幸	7271	
産業動物衛生学	教授	上村涼子	7283	
獣医微生物学	教授	岡林環樹	7575	*
獣医微生物学	准教授	齊藤 暁	7275	**
獣医公衆衛生学	教授	山田健太郎	7285	
獣医公衆衛生学	准教授	山崎朗子	7284	
産業動物臨床繁殖学	教授	大澤健司	7787	
産業動物臨床繁殖学	教授	北原 豪	7655	
産業動物内科学	教授	佐藤礼一郎	7280	
獣医臨床放射線学	教授	佐藤裕之	7852	
獣医外科学	助教	井上賀之	7279	
獣医内科学	准教授	大菅辰幸	7959	
獣医寄生虫病学	教授	吉田彩子	7276	*
獣医寄生虫病学	准教授	入江隆夫	7119	
獣医機能生化学	准教授	新井良和	7262	
産業動物伝染病防疫学	教授	関口 敏	7676	*
獣医遺伝情報学	教授	新村芳人	7163	
産業動物防疫学	准教授	目堅博久	7881	*
	准教授	小林郁雄	TEL 39-1034	***

* 産業動物防疫リサーチセンター (CADIC)

** フロンティア科学総合研究センター 先導研究推進部門次世代卓越研究者育成分野

*** 農学部住吉フィールド (牧場)

【附属施設】

所属	職階	氏名	内線番号 (又は電話番号)
木花フィールド(農場)	教授	中村 薫	7789
	講師	松尾 光弘	7579
住吉フィールド(牧場)	准教授	小林 郁雄	TEL 39-1034
	准教授	石垣 元気	TEL 39-1034
田野フィールド(演習林)	教授	高木 正博	TEL 86-0036
延岡フィールド (水産実験所)	教授	内田 勝久	TEL (0982) 37-0327
動物病院	教授	永延 清和	7278
	准教授	金子 泰之	7244
農業博物館	教授	宇田津 徹朗	7256

【事務部】

部署	職名	内線番号 (又は電話番号)
	事務長	7149
	事務次長	7150
教務・学生支援係	教務支援担当係長	3834
	大学院・学生支援担当係長	7152
総務係	企画評価担当係長	7151
	総務担当係長	2875
附属次世代農学教育研究センター事務係		7154

